

II 20周年記念会員寄稿文集

忘れ難き敗戦の日々

24 渋谷 文雄

70年前。灼熱の太陽が照りつける満州首都の郊外。遠く高粱畑の広がる緑の地平線に、雲がわくような土煙を上げて巨大なソ連の戦車群が横いっぱいになって攻め込んできた。

この侵攻は、8月9日未明からソ満国境の至る所で始まったが、関東軍の主力はすでに沖縄、フィリピン等の戦線に移動し、守備部隊の一般兵士は、根こそぎ動員で駆り出された学徒兵と老いた補充兵が大半で、爆弾を抱えて戦車に飛び込む自爆戦で抵抗し戦った部隊もあったが、たちまち蹂躪され、敗退に敗退を重ね、多くの兵士が戦死した。また、北満地区の日本人開拓民は暴徒に襲われ、悲惨な集団自殺が各地で行なわれた。

この頃、高級将校とその家族達は、いち早く特別列車を編成し、朝鮮経由で帰国途上にあった。一般市民は、南下する帰国の列車の都合もつかず、そこへ奥地の開拓地で襲われた難民集団が、着の身着のままで街に逃げ込み、どの街も難民達で溢れた。しかもソ連兵と暴徒達は、この日本人集団と居住地を狙って強盗、略奪、暴行、強姦を繰り返し、運悪くソ連兵に拘まり軒下で強姦されるのを目撃しても、自動小銃をぶっぱなすので、近寄ることもならず、泣き寝入りするのみ。敗戦の惨めさを切齒扼腕して耐えるほかなかった。

私は、数人の仲間と中国服をまとい帰国すべく南下し、安東を目指した。昼間は暴徒に襲われる危険があるため山中に潜み、移動は夜。やっとたどり着いた安東の街は、朝鮮国境がすでに閉鎖され、前からの住民と難民とで人が溢れ、朝鮮経由の帰国は不可能となった。近郊の開拓団に用心棒として同居させてもらったが、ソ連兵の使役要員として駆り出され、日本が設置した発電設備や工作機械等の主要な設備を解体し、列車への積み込み作業に酷使された。あげくは彼らは鉄道のレールまで列車に積んで持ち去った。当時、安東市街は、蒋介石の先遣隊や特務機関と、毛沢東の先遣隊との小競り合いで、昼間から拳銃の打ち合いがあつて、役所屋上に赤旗が立つとおもえば、翌日は青天白日旗が取って代わったり、関東軍の脱走兵が蒋介石の傭兵となり、逆に八路軍に雇われる者もいて、両者の争いに巻き込まれ、多くの日本人が犠牲となって死んだ。昼間の発砲騒ぎ、ソ連兵の略奪、強姦、暴行も続き、多数の難民を抱えた安東の街は、地獄の街といった状況となり、多くの日本人婦女子が死んでいった。

翌年春、米国の支援により蒋介石軍が空陸大挙して満州に侵攻した。ソ連から毛沢東軍に引き渡され、国共内戦に巻き込まれた私達は、軍と共に奥地に撤退を重ね、迫撃する蒋介石軍の弾雨の中、傷病兵を担架に担ぎ、炊飯や燃料の確保、戦死者の埋葬など、あらゆる雑務の使役に耐えながら連日徒歩の逃避行を続けながら各地を転戦した。やがて反撃の時期(1947/3)を迎え、人民解放軍と名を改めた毛沢東の軍隊は、農民の支持を得て全国支配に至るが、解放軍に留用され、彼らと共に行動を余儀なくされ協力した日本人達の中には、私達の仲間も含め戦病死した人達も少なくない。残念ながらこれらについての正式の記録は残されていない。

私は、その後指示により離隊。残留を余儀なくされていた多くの日本人技術者・医師・大学教授等の子弟教育に携わることとなった。そして昭和28年の秋、ようやく教え子達と一緒に祖国日本に「生きて」帰国することができた。

帰国後、生活も落ち着き、生き残った学友と隔年の同窓会を楽しむようになったが、古希を迎えた年、学友達から、当時の体験を記録に残そうという提案があつて、「幻の母校」と題する冊子に纏め、生死にかかわらず連絡先の判明している学友に送り届けた。私はその序文の書き出しに……今年古希を迎える僕らは、昭和20年8月15日、遠く異境の地、旧満州国各地の動員先で敗戦の日を迎えました。諸兄等は、その日からすべての庇護を喪い、無政府状態が続く異国の地にあつて、自らの才覚で生き延びること以外に選択の余地なき環境に生活することを余儀なくされました。それらは諸兄等の人生に、神が最初に与えた最も厳しい試練だったのかも知れません。……と。

今年「古希」を迎える戦後生れの人達は、どんな感慨をお持ちだろうか。

そして私は、プロバス創立10周年の記念誌に「……私は二人の兄を戦争で失った。今にして亡き母の嘆きと悲しみを思えば、老残といえども、わだつみの声に不戦を誓い、「武力を紛争解決の手段としない」と定めた平和憲法を護る反戦の立場と旗幟だけは鮮明にして、残り少ない「老」の余生を生きねばと思っている」と書いた。今、その思いが一段と強くなっている。

「宇宙の学校」の経験

26 下山 邦夫

宇宙は謎に満ちている。★始めと終わり★幾億光年の彼方、なお遠く★物質と命……だから本当のことを知りたいと誰でも思う。でも行ってみることも叶わない。「宇宙の学校」を始める際、JAXA名誉教授的川泰宣先生から、プロバスクラブでお話を聞いた。「宇宙は子どもの心に火を付けるための素材だ」と。「宇宙の学校」を始めて5年目、この言葉をかみしめながら、私なりの感想を記してみた。

① 素人よ集まれ！

我々は宇宙については全くの素人である。こんな素人が子どもに教えていいのかと不安を持つが、素人が素人として実践することで構わないのだと思っている。解った振りなどもっての外。「子どもたちの心に火を付ける」というコンセプトを思い出し、子どもに自分でやらしてもらふ事が肝心なのである。「小父さん(お爺さん)違うよ！こうした方がいいよ！」と言葉が出てきたら大成功なのである。大きな謎は持って帰ってもらえばいい。小さな体験と工夫を持って帰ってもらえばいい。と考えて素人でも胸を張ってやっているのである。

② 子ども教育に経験がなくて結構、注意は必要！

小学校の教師の経験もなければ、自分の子供と接したのさえずいぶん昔、孫との会話も多くは無い。私の4年間の経験の中でもずいぶん失敗した。声が大きだけで子どもは尻込みする。見知らぬ爺さんの大声には驚く。従ってスタッフには少し心構えが必要である。子どもに直接よりも、保護者を通して話す方がいい。保護者は日頃、子どもと接し、その子のレベルやくせが分かっているのだから。

お母さんたちは子どものことをよく分かっていて、どんどんやらせてみたり、少し手伝ったり、上手いものなのである。

子どもと直接に話す場合は少し優しい心で、ゆっくり話すつもりがいいのだろう。

③「宇宙の学校」はあらゆる家庭、地域、学校…と協力！

どんな団体を協力相手にするかについて、KU-MAではこだわっていない。教育委員会、大学、高校、小中学校、株式会社、ボランティア団体、町内会連合、PTA、そしてプロバスクラブ。

それぞれにやる事は同じでも、ニュアンスに違いが出る。高校生のお兄さんお姉さんとプロバスクラブ員では当然違いが出るが、どちらがいいなど言えない。それぞれのいいところを発揮すればいい。

④ 宇宙のニュースに関心を！

最近宇宙関係のニュースや解説などが新聞に毎日のように出る。これらに関心を持って読んで置いたら、宇宙の学校が更に楽しい。

謎が深まるばかりだけど。

今年は惑星探査機のニュースが面白い。ロゼッタ、ニューホライズンズ（冥王星に到達）、ドーン、あけぼの、はやぶさ2など。来年には日本の月着陸探査などのニュースが飛び交うだろう。ISSへの油井飛行士の長期滞在も話題となる。ロケットによる実用衛星の打ち上げはもちろんワクワクする。夫々のプロジェクトを少し理解しておく、子どもに夢のかけらを話せるかもしれない。「宇宙の学校」に来るお父さんお母さん方には、宇宙に関心がある方が多いから、会話が成り立つためにも。

⑤ 実験工作を通して、感得して貰いたい事を大切に！

ただ作るのではなく、なぜかと疑問を持ち実験結果、こういうわけだったのだと理解してもらえば最高なのだ。理論を口でいくら説明しても子どもたちは???だが、眼で見、手で触れば原理は解るのだ。詳しい理論は大人になるまでに機会があるから、原理的なことを体験的に知ってもらいたい。

⑥ 周りに目配りを！

工作や実験には怪我が起こる事もありうる、我々スタッフにはそういった周囲への注意の方がテクニックよりも大切なのかも知れない。参加者がお互いに気遣いあっているような、和やかな学校を心がけたい。全てが子どもの記憶の底に残るのだから。

⑦ ボランティアやって下さる方を探そう！

もっとボランティアの層を拡大していきたい。私個人でも、プロバスクラブでも限界が来るだろう。ボランティアの拡大は絶対に必要だ。若手のボランティアを切望する。皆さんいい知恵を貸してください。我々は子どもを通してのみ未来に影響を残せるのだから。

最後に、KU-MAのキャッチコピーを掲げて終わりにする。

宇宙を視座に大人が変わる
子どもが輝く
美しい星が生まれる

私には現住地以外にも故郷が2つある。一つは生まれ育った神戸・垂水。もう一つは四国・高松（母の里で小5～中3まで疎開をしていた）故郷の四季折々は、折につけて思い出すが、共通しているのは海。神戸の海、高松の海それぞれの色があり、山や野や田など年を取ると共に深く思い出す。

春－神戸

神戸・垂水の春は「いかなご」と共にやってくる。沖合に小舟が並び、いかなご漁がはじまると春だ！と思う。各家で「釘煮」を煮始めると、甘い醤油の匂いが町中に漂う。海の色がキラキラと輝き始めると学校帰りの友達とそろそろ泳ごうか～が話題になる。八王子の人達に想像もつかないだろうが、4月になれば海で泳ぎだす。何時間でも潮に乗って浮かんで遊んでいるが、意外と海水は暖かい。楽しい夏がすぐにやってくる。

夏－高松

疎開をした時は初夏だった。見渡す限り黄金色の麦の畑。その間の農道を抜けて学校に通った。讃岐弁も1週間もたない内におぼえて、田舎の子になった。麦刈りの手伝いをしたら、穂先のイガイガで夜もねられない。終わるとすぐに田植え。田植えも今の様な機械でなく全部手植え、すぐに覚えて田水の中に入るけど、蛭が足に取りつくのと、蛇が泳いでくるのには参った。稲刈りまでの楽しみは海。神戸と違い北にある屋島のそばの春日川の河口の海で泳ぐ。背中のリュックにおにぎりや青い青い小さなリンゴを数個。土手の日盛りを兄弟でぼこぼこ歩いて泳ぎにいった。

夏－神戸

夏休みの楽しみは高松のお祖母ちゃんの家に行くことだ。父の会社の船で神戸港を夜10時に出帆し、朝5時に高松港に着く。明けやらぬ屋島の陰を回ると高松港の築港の栈橋が見え、お祖母ちゃんが立っているのが見える。帰って来た～と感じる時。神戸の夏は楽しいけど、台風のメッカだから、毎年3～4回どでかいのが来る。戦後はキャンズリーン、ジェーン、キティなどアメリカの女性の名前のついた台風が来た。アメリカのダンナも女性は台風並みに怖いのかな。

海も荒れて、庭まで波が入るし、屋根瓦が飛ぶし怖いけど、家族中で雨戸を押さえ無事に過ぎゆくのを待った。八王子に来た時一番に思ったのは台風のないいいところだ～地震には一寸びっくりしたけど。今は関西も四国も関係なく地震があるが。

秋－高松

実りの秋。初夏の麦の金色と違い、しっとりとした秋色にたわわに穂を垂れ刈取りを待っている。あちらでもこちらでも稲刈りが始まると、あつと言う間に切り株と切り株の間に刈り取った稲穂が架けられて干されている。晴天が続く今度は脱穀機の音が響きわたり粳となって行く。もみ殻を焼く紫色の煙があちこちの田圃に上がるころは秋祭りが近い。秋祭りより楽しみが「野芝居」。麦撒きまでの短い間に野芝居がまわってくる。

切り株の上にパタパタと芝居小屋が立ち上がり、夜は旅芸人の野芝居が始まる。お祖母さんの作ったお重を持ってゴザの上に座り2時間ほど楽しむのだが、初めてみる旅芸人の「名月赤城山」「清水の次郎長」などびっくりしながら皆と一緒に掛け声を

かけた。驚いたことに、おひねりは畑の野菜！芋や大根が舞台に乗せられる。楽しかった秋。

冬－高松

麦撒きが終わり農家も一段落。すぐに暮れが来るが、お正月は旧正月。大体1月の終りごろが多い。前夜から用意した4俵くらいの御餅を1日かけて3本の杵で賑やかに搗く。丸餅、のし餅、お供え餅、おかきにする薄い餅など。高松は殆どが丸餅で、中に甘いあんこが入って居る。それがお雑煮に入るのだから、関東の人達には想像もつかないだろう。

故郷がいくつもあることは本当に嬉しいことで、人生の終りに近づいて尚なつかしむ。地元で生まれ地元で育ち生活している方々には申し訳ないような気がしてならない。

仲良しクラブ

43 古川 純香

私にとってプロバスクラブは、ある種の息抜きの場でもありました。それは、あたかもお茶を一煎さし上げ、その後に頂くホノ甘いお菓子のように……またブランデーグラスを揺らし夢見る一時なのでしょう。こんなこと申しますと、会のため毎年交代で動いていらっしゃる役員の方々に「何だ…それは…」とお叱りを受けるような気も致します。

振り返りますと、会発足の頃、大野聖二様からのお誘いで、入会致しました。あの頃からすでに20年の歳月……大小いろいろな出来事がたくさんありました。会員の皆様と共有する行事の数々……これでも出席率は良かったと思っています。

この会が、私にとってホッとする会とは何故か……と申しますと、もう一つの組織（あるいは団体ともいえるでしょう）を維持して、その清泉会の初代会長、家元業（煎茶道、文人華道）と両輪でレールを走っておりました。緊張の連続でした。今でもそれは続いております。こちらの会は、上下の関係もなく、会でも内容が異なりますので、比較はできませんが、……しかし、多かれ少なかれ、会員の方々が若い頃の現役時代の緊張の日々から解放され、それぞれの立場の人との交流、つまり、つかず離れずの車間距離が魅力なのではないでしょうか。

ここに、つたない短歌、心境の一端を申し添えます。

- 花開き つばみの頃の 色冴えた 今は思い出 懐かしむ
- 新緑の 燃ゆる木々の葉 老若も とともにゆらぐは 庭の朝
- 心せよ 明日もまた来る 雨と風 めげずに歌う プロバスソング

八王子空襲から70年。それは1945年8月1、2日のことでした。その前夜、伝単リーフレットが投下され、八王子・水戸・長野等の12の市の空襲を予告されました。

1月27日、初めて八王子に爆弾が7個、元八王子、恩方に落ちました。続いて由井、川口、浅川等10回程、B29、P51、艦載機からの空襲があり、死傷者が出ました。元八王子小学校が機銃掃射を受け、集団疎開中の児童が亡くなりました。3月10日の東京大空襲は、八王子からも見えました。人々は防空壕を作る、荷物を疎開する等、空襲に対する恐れが募っていきました。

8月1日は、早めに夕食を済ませました。家族は灯火管制下、一部屋に集まり、ただ黙って身支度をしました。8時25分警戒警報、同55分空襲警報発令。ラジオからは、長岡、富山、川崎等の爆撃が伝えられ、人々は今夜は大丈夫かと判断して気をゆるめ、一眠りしている家が多くありました。

しかし、真夜中になってB29の爆音に驚き外に出てみると、空襲は始まっていました。南も西も火の手が上がっていました。最初の投弾は、万町の製麦所付近、続いて横山村の陸軍幼年学校。父は警報と同時に、警防団本部に行っていますので、母は妹を背負い、姉は私と手をつなぎ、浅川の河原に向かって逃げました。私の家は八王子駅のすぐ近くです。兎に角、人の流れと共にぞろぞろと夢中で歩きました。河川敷につくと、大勢の人がいました。

暁橋の少し下流の所です。大荷物や、家具等もありました。河原から、家の方角の南を見ると、何度も何度も焼夷弾が斜めの光の線になってつながって見えました。照明弾も前後して投下され、パッと明るくなり、新しい火の手が次々に上がりました。つむじ風も起きました。皆黙って立ってみてました。169機の最後の投弾は、午前2時半とのことでした。それにつれて爆音も聞こえなくなり、夜が明けてきました。人々が動き出しました。家族は知り合いの家に集まり、5人揃って家に帰りました。焼け跡に立つと、全く何も無く、風呂桶の底板の一部と、植木や竹の根がくすぶっているだけでした。近所の人も帰ってきて無事を喜び合いましたが、向かいの家など何人もの人が逃げ遅れたようだと話していました。昨日まで遊んだ友だちもその中の1人です。照り付ける太陽と、焼け跡の暑さにいたたまれず、高尾の親類の家に向かいました。途中、防火用水に半身を入れたままの人、焼け焦げている人などもいました。町の目標物も無く、異臭やパチパチという音の中をただただ歩きました。親類の家にとどり着いた時は、夜になっていました。皆で待っていてくれました。やっと畳の上に座ることができました。

8月5日、0時頃、中央線高尾駅発419列車が湯の花トンネル東側でP51機に発見され、銃撃を受け、死者52名負傷者183名と多くの被害がでました。

そして8月15日、終戦を迎えました。

二学期の授業が再開しました。小学校7校、中学校5校は、ほぼ全焼しました。幸い第四小学校は、10教室焼け残りました。暗くなると窓の下に移動し勉強を続けました。先生も生徒も一生懸命でした。先生はわら半紙を調達し、ガリ版で手書き手刷りで卒業文集を作ってくれました。私の宝物です。一去年の春飾りし雛も今はなく― 等載せてもらいました。御殿飾りの自慢のお雛様でした。

八王子空襲の体験談を、市の平和展や、小中学生に話していますが、皆大変驚きます。旧市街の大半の焼失、445名の死者という被害を受けたのです。

戦争を知らない世代が大半を占める現在、どのように実際に伝えていくか。戦跡や体験等、映像等で。それぞれ風化や開発、高齢化と問題があります。けれども70年を期に平和な社会の尊さに思いを新たに作るきっかけになればと願っているところです。

（参考文献 ブックレット 八王子大空襲）



2014年10月、縁あって「小泉八雲没後110年記念公演 語り、男声合唱とピアノ、リードオルガンのための“漂流”」の舞台企画・運営、そして合唱団員として出演する機会を得た。プログラムは第1部：基調講演「現代に息づく八雲の心」講師：小泉凡(島根県立短期大学部教授)、シンポジウム パネリスト：小泉凡、大澤隆幸(焼津八雲顕彰会副会長)、小沢信夫(作家)、第2部：語り、男声合唱とピアノ、リードオルガンのための“漂流”(2014初演)である。

場所は新宿区四谷市民ホール、共催は新宿区、後援は新宿区教育委員会、駐日アイルランド大使館、駐日ギリシャ大使館、日本ギリシャ協会。

このイベントの紹介は以下の新宿区ホームページに公開されている。

http://www.city.shinjuku.lg.jp/event/bunka01_001689.html



この企画で初めて、アイルランド大使館、ギリシャ大使館など外国の後援申請の経験を得た。また八雲の曾孫にあたる小泉凡氏とお話しする機会ができたことも、八雲を深く知りたいという欲求の一つになった。

このイベントに参加するに至った経緯は、「語りと音楽の会・ともだちや」の主宰者と音楽家との交流が縁で、平成26年9月4日、「日本・トルコ国交樹立90周年記念メモリアルコンサート2014～命を懸けた救出劇エルトゥール号が結ぶ、日本とトルコの友情」(NHKホール)に合唱団の一員として出演した機会がきっかけである。

さて、この『漂流』という話は、八雲が晩年の1901年に発刊した『日本雑録』の中に収められた話である。毎年夏に訪れていた静岡県焼津の浜辺で、甚助という老人に聴いた実話で、甚助老人が若い頃に嵐の海で漂流した時の体験を一人称で語って聞かせるという恐ろしい話である。

八雲というと『耳なし芳一の話』『雪女』『むじな』くらい



しか読んでことがなかったが、『漂流』を知って、この作家の作品に改めて興味を抱いた。そこで八雲の人生行路を調べて、自分の知識のタンクに貯蔵したいと思い取り組んでみた。

八雲（ラフカディオ・ハーン）は、1850年にギリシャ・イギリス領レフカダ島で生まれ、1852年アイルランド・ダブリンに移住し、幼少期を過ごした。両親の離婚で、フランス、イギリスへわたり教育を受け、そのうち1859年にアメリカに渡って、ジャーナリストとして活動、多数の作品を残している。1890年（明治23年）に来日、1904年（明治37年）東京新宿の大久保で死去。来日してから、わずか14年間で「怪談」や日本文化風物の作品を多数発表したという事実は探求に値するものである。

日本では、松江・熊本・神戸・東京と居を移しながら教鞭をとり、日本の英語教育の最先端で尽力し、欧米に日本文化を紹介する著書を数多く遺した。『雨月物語』『今昔物語』などに題材を採った**再話文学**で知られている。これも妻である小泉セツの協力があったからこそである。八雲は彼女のために日本国籍をとった。それら作品は、すべて英文で書かれたものであり、日本語の書物は翻訳ものなので、なかなか読むのに骨が折れる。『漂流』についても3人の文学者が訳しており、各々若干のニュアンスが違っている。これら発表された作品は膨大な量で、とても読破はできない。代表的な日本研究の作品は『**神国日本-解明への一試論**』柏倉俊三訳注（東洋文庫）である。「日本の心」を知らしめてくれている点、私たちも、もっと自分の足元を見なければならぬと感じている。

私は彼の人生行路が、欧米での評価に加え、当時の日本ではどのように受け入れられていたのかを推察してみようと思い、いま八雲に関するさまざまな人物評価の文献を探し求めている。

八雲の生きざまについて、まとまった暁にはご披露したいと考えているが、生きているうちに果たせるかどうか疑問ではあるが、この探求はささやかなライフワークとして続けてゆきたい。

金沢への追慕

70 佐々木 研吉

北陸新幹線が金沢まで開通し、金沢や北陸路がにわかに脚光を浴びている。普段から人気の高い観光地だが、最近はブームともいえるべき活況を呈している。私は、昭和57年（1982年）12月から同59年（1984年）8月まで、金沢に勤務した。魅力豊かな土地柄だけに長く勤務したかったが、人事の非情さ、僅か1年8カ月で本店に戻され、現役時代に勤務した12部署（本店の部局を含む）のうちで最も短い勤務地となった。

しかし、当時の地形図を取り出してみると、さまざまな記憶がよみがえり、まことに懐かしい。もとより同地に関する観光案内や紀行文などは数多く公にされているが、以下当時の記憶をたどり、私なりの印象を記してみたい。

二つの清流、浅野川と犀川

金沢は、白山から北に連なる山系（大倉山、医王山<いおうぜん>等）に発する浅野川、犀川に挟まれた小立野<こたつの>台地（金沢城、兼六園が立地）を中心に、2つの川の南北に展開する街である。2つの川は、ほぼ並行して市内を西北へと流れ、その間の距離は狭い所では1kmほどである。ともに流れは清らかで速く、かつ水量も豊かで、友禅流しの舞台となる。それぞれの街並みと合わせた風情から、穏やかな浅野川を女川、時には暴れ川となる犀川を男川と呼ぶとも聞いた。川の流れは、いくつかの用水

に取り込まれて市内を巡り、生活用水として使用されたあと、郊外に至り灌漑用水となる。用水は、兼六園霞ヶ池に取り込まれているほか、保存されている武家屋敷の一部の泉水にも利用されている。往時は、城を巡る堀の水源ともなり、舟運にも利用されたという。市街地を貫流したあと、浅野川は、大野川と合流して日本海に注ぎ、一方犀川は、豪商銭谷五兵衛の事蹟で名高い金石くかないわ港で日本海に注ぐ。

古都の風情を残す街並み

新幹線の開通により、東京から2時間半で金沢へ行けるという。私が在勤した頃は、ほぼ半日の行程で、東海道新幹線の名古屋か米原で、金沢・富山行きの在来線特急に乗り継ぐのが常であった。当時の金沢駅は質素で、武蔵ヶ辻一香林坊一片町と続く中心街からも遠かった。しかし、新幹線の開通に合わせて駅舎はリニューアルされ、駅周辺も、地元銀行の新本店がオープンするなど再開発が進み、中心街につながる繁華街が形成されたという。

しかし、金沢の街の魅力は、藩政時代からの情緒を残す木造・瓦葺きの家並みにある。付随する板塀、土塀、石垣などのほか、手入れの行き届いた庭園や流れの速い用水の清流が風情を添える。入り組んだ狭い路地に迷うことをいとわずに歩けば、演歌の歌詞にあるように「加賀宝生」の謡曲が降ってきそうである。「ひがし」「にし」「主計町くかずえまち」の茶屋街はその典型である。

幕末までの金沢は、江戸、京、大坂と並ぶ4大都市の一つであった（ちなみに、旧制高校も、東京、仙台、京都に次ぐ4高）。ぜひ永く残して行きたい街並みである。

多彩で奥深い伝統工芸

周知のように、金沢およびその周辺に立地する伝統工芸は、まことに多彩でかつ極めて奥が深い。すなわち、加賀友禅、九谷焼、大樋焼、加賀蒔絵、加賀竿、金箔、仏壇、桐工芸、和紙、水引、加賀人形等々まさに枚挙にいとまがない。歴代藩主による積極的な奨励策、工芸に適した湿潤な気候、真面目で粘り強い加賀の人々の気質などが複合して今日の隆盛を築いたといえようが、いずれも最高水準にある。無粋な私にはよく解らないが、中でも加賀友禅と金箔加工が、さらに群を抜くものと思う。加賀友禅の手描き・糊置きの工程を見学したことがあったが、まことに細密なものであった。

穏やかで豊かな人々の暮らし

金沢は、海の幸、山の幸にも恵まれている。有名な近江町市場を巡れば、豊富な食材が求められ、伝統の加賀料理の素材となる。当然、清酒も美味で、全国に著名な銘柄もいくつかある。某酒造メーカーを見学した折、利き酒テストで全問正解の賞品を貰った思い出も懐かしい。

市内には、古く格式高い料亭が何軒もあり、それぞれ吟味された伝統料理を提供してくれる。そこでは、芸妓連の優雅な唄や踊りも披露される。茶道が盛んなこともあり、和菓子にも銘菓が多い。

金沢の人々は、幼い頃からこうした恵まれた環境で育てられることから、穏やかな、教養豊かで多芸な人が多い。謡曲、仕舞、詩吟、小唄、三味線、能管、尺八、俳句、茶道、香道などが盛んで、大抵の人は、このうちいくつかを嗜み、しかもかなりのレベルに達している。

私の勤務した支店では、時折、終業後に女子職員が素早く和服に着替えて、茶道を楽しんでいた。時には、私も正客に据えられ辟易したこともあった。

毎年、菩提寺から暦が送られてくる。主な内容は、西暦と旧暦の暦の他に、二十四節気、干支、九星、雑節、十二直、六曜、廿八宿などで締められている。どこかで名前だけは聞いたような気がするが、何を意味しているかは明確ではない。加えて、それらの吉凶を解説しているようだが、ほとんど理解できない。旧暦、いわゆる太陰太陽暦を物理学的に理解するのも結構やっかいなのであるが、陰陽道や宿曜道まで理解しなければならないようである。さらに、運勢、家相、縁組みの吉凶まで書かれている。もしこの暦を完全に理解できたとしたら、自分の行動が暦に支配されてしまうような気がする。

事実、平安貴族達は陰陽道に基づいた暦の禁忌事項によって行動が縛られていたようである。こんなことを考えながら、菩提寺から送られてきた暦であるが毎年目を通すことはほとんどない。現在のカレンダーには禁忌や吉凶には触れていないが、旧暦の暦の名残として、六曜（大安、仏滅など）が書かれているものが結構ある。

日本が太陽暦を取り入れたのは明治5年（1872）である。近代化を進めるためには、欧米と同じ暦を使わないと不便であるというのが表向きの理由であるが、明治5年という年にはもう一つの理由があったようだ。実は、旧暦の明治6年は閏月のある年で、1年13ヶ月の年である。財政が苦しかった政府は、1ヶ月分の役人の給料を節約するために、明治5年12月2日の翌日を明治6年1月1日とした。また、12月の2日分はただ働きとし、合計2ヶ月分の給料を浮かせた。財政難とはいえ、あまりほめたやり方とは思えないが、暦の上では欧米と対等になった。太陽暦の採用によって、旧暦の禁忌からも開放されたが、時間に縛られていることにはかわりがない。

暦の出来る以前は自然現象によって季節を感じていた。白馬岳の近郊では、雪山の雪が溶けて山肌に馬の形が現れると春であり、そろそろ農作業の時期だと感じていたようである。実にのんびりとした風景が浮かんでくる。この歳になったら、もう少しスローライフを楽しみたいものであるが、暦の存在がそうさせてくれないようだ。暦の発祥は時の支配者がいつまでに年貢を納めよ、というように時間を約束させるためであった。暦はもともと生活を時間で縛る道具だったのである。一方、暦は生活には欠かせないものである。何月何日に会おう、今年で何歳になった、例会は毎月第2木曜日、20周年行事、戦後70年など暦は便利に使われている。こうして、慌てて原稿を書いているのも暦のなせる技である。

今年で喜寿を迎えた。プロバスに入会してから、まもなく古希を迎え、後期高齢者となり、あっという間に喜寿を迎えた気がする。プロバスクラブも今年で20周年を迎える。さらに、25周年も30周年もあっという間にくるはずである。時間の経つのが早く感じるのは歳のせいだけでなく、暦があるためであろう。菩提寺から届いた暦をたまたまながめてみた。今年の運勢は最悪の凶であり、厄年と同等のようである。凶はあまりうれしくないが、これ以上悪くならないと前向きにとらえていれば、あっという間に一年が過ぎていくはずである。暦や時間にとらわれず、スローライフを楽しみたいと考える今日この頃である。

はじめに

戦時色が強まる 1941 (昭和 16) 年 4 月に小学校は国民学校へと変わり 6 年間続いた。私は同年市立第一国民学校に入学、同年 12 月太平洋戦争が始まった。

市街地の 8 割を焼いた八王子大空襲は 5 年生の夏に体験した。当時、父は市の中心部横山町 3 丁目で揺籃社という書店を経営しており、そこは住居付店舗となっていた。市の北部の台地、安土 (現在の暁町) にも住宅があった。空襲当夜、父は市中に泊まり、私たち家族は安土にいた。

真夜中の空襲

1945 年 8 月 1 日夕方からの八王子市内の様子は、口移しの伝令で女・子供・老人の避難命令が出て、いつにない緊張感があった。前日、八王子を含む 12 都市の空襲を予告し、市民の避難を呼びかけた米軍の宣伝ビラが撒かれていた。

1 日夜「関東海面空襲警報」が発令されたが、しばらくして解除、12 時をまわってから再び空襲警報が出て間もなく、焼夷弾爆撃が市内中央から始まった。シャーという夕立が降っているような連続音、それにバリバリといった衝突音が加わった。B29 爆撃機の焼夷弾爆撃によるもので、建物に当たり燃え出す。

床の中でラジオを聞いていた父は、爆撃音で自転車を出し、安土へ避難をする時には南の方に火の手が上がっていた。大善寺横町を暁橋に向かうが、道幅一杯に人が流れ込み、早くは進めない。暁橋を過ぎてホットしたという。

私は眠っていたが、空襲だと起こされた。浅川の南に位置する市街地めがけて、夕立のような音を立て落ちていく焼夷弾を庭から眺めた。青白い光芒を描きながら落ちていくのは照明弾であろうか。疎開し同居していた親類など、女・子供だけの家に父が戻ったのは、爆撃が始まってから 3、40 分後だった。月は赤く見え、激しく起こる上昇気流は雲をなし、僅かの雨さえあった。空襲が終わったのは午前 3 時前であった。

わが家にも焼夷弾が命中

父が無事市中から脱出した安堵感に浸る間もなく、まわりが畠のわが家にも焼夷弾が命中した。屋根を貫通し、積んであった疎開荷物に当たって座敷にころがり発火した二発を父が外に投げ出す離れ業、ほっとする間もなく、玄関の天井で火が見えた。梁に当たり突き抜けなかった一発である。父が咄嗟の判断で屋根に登り、燃えているあたりの屋根瓦を壊し「水を持ってこい」と号令。消火を手伝ったのは、当時家にいた中学一年生の宇ちゃんと国民学校 5 年生の私など幾人かで、池の水をバケツリレーした。消し止めてホットした時には、2、30 メートル離れた東隣の二階家は炎が赤々とあがっていた。

3 発の焼夷弾に向け奇跡とも思われる短時間の働きで、安土の家は灰にならずにすんだ。玄関の天井と白壁に残る焼夷弾と消火の痕跡は、記念として家を処分する 1988 年まで残っていた。写真左上は「1945 年 8 月 2 日 B29 による焼夷攻撃跡」右下は「第二次大戦を記念す 1945」と父の筆字説明文が入る。

わが家の前庭や近所の畠、裏山には、いくつもの不発弾が土中に突き刺さっていた。焼夷弾を束ねる大きな金具も落ちていた。もし当たったら、即死だったろうにと、後で皆肝を冷やした。

空襲の後

早朝父は市の郊外の川口村檜原（現檜原町）にある生家に駆けつけた。ここも母屋や長屋門など付属の建物が焼失、2棟の土蔵も焼夷弾の直撃を受け煙が出ている状態だった。

朝日は何時もと変わらず昇ったが、想像もしなかった光景が展開していた。周囲の畠には、大火による上昇気流で舞い上がったトタン屋根などが飛来しており、その中には、天皇のご真影の破片もあった。



焼失した店の跡へ行く。黒く汚れた姿で、変わり果てた街路を歩く人たち。鉄筋コンクリートの建物がほとんどない時代、一面の焼け野原に土蔵がぽつんぽつんと残っていたが、時間がたって焼け落ちるものも出た。焼け跡で残骸を掘り起こす人々の灰で汚れた無表情な顔。米軍の戦闘機が反撃されることもなく低く低く飛んだ。父の言った敗戦という言葉が実感となった。

写真：玄関の天井にあいた焼夷弾の貫通痕と焼けこげた周囲
(1988年8月写)

囲碁の歴史に思う

80 矢島 一雄

今や、囲碁はアジアだけでなく、米国や南米、ヨーロッパなど世界各地に於いても愛好家が増え、その数 4200 万人以上と云われるほどに広がりを見せており、1979 年には第 1 回世界アマ選手権戦が開催されるなど国際化が進んでいる。

しかし、このように世界的な広がりを見せている囲碁だが、その起源については諸説あって学問的に解明されていない部分が多く残されている。

一説によると囲碁の始まりは 4000 年ぐらい前の中国と云われているが、インドという説もあって確かなことは不明であるらしい。

日本への伝来についてもいろいろな説があるが、中国の「魏志倭人伝」の中に卑弥呼が朝鮮から囲碁と双六の道具の寄贈を受けた記述があることから、中国から朝鮮半島を経由して日本に伝来したのではないかとされているようである。

過日インターネットで囲碁の歴史に係る興味ある記事に出会った。

それは、奈良の正倉院に収められている中国の唐代に製作されたと見られていた、聖武天皇が愛用した我が国に現存する最古の碁盤と云われている「木画紫檀碁局」が、宮内庁正倉院事務所の最近の調査によって、朝鮮半島で木簡や工芸品の部材として多用されている松とみられる木材が使用されていたことから、朝鮮半島で作られた可能性があることが判明したと云う。

奈良の正倉院には、前述の「木画紫檀碁局」以外にも聖武天皇愛用の碁盤と碁石が収められている。特に、一組の碁石は「紅牙撥鏤碁子」と「紺牙撥鏤碁子」と名付けられた象牙製で紅色と紺色に染められ、双方とも表面に花喰鳥の撥鏤（はねぼり＝唐代に行われた象牙彫刻の一つ。紅・緑・青などに染めた象牙に毛彫りで文様を現したもの）が施され、当時の工芸の逸品と云われ、「東大寺献物帳」によると百済の義慈王から藤原鎌足あてに送られたものであると云う。

日頃から碁石は白と黒のみと思い込んで親しんできた私にとっては、インターネット上で初めてこの写真を見たときの驚きと感激は今も忘れることはなく、ぜひ一度は実物をこの目で見てみたいとの思いが強くなっている。

しかも、これらの品々は、平成17年の第57回正倉院展で12年ぶりに展示されており、当時鑑賞する機会がないままに過ごしてきた事が、今になってみると非常に悔やまれる。

正倉院の整理された収蔵品は、9000点にも及び、その中から毎年70点ばかりが展示されていることから、今後何年先に再展示されるのか何とも心細い限りであるが、早期に展示がされる日が待ちどろしい。

慶長遣欧使節とサン・ファン・パウティスタ号

83 八木 啓充

サン・ファン・パウティスタ号との出会い



2013年9月28日石巻でのヨコハマサティフォーの慰問コンサートが終わり、ホテルに戻った。ロビーに張られた一枚のポスターが目にとまった。慶長使節・支倉常長の足跡を展示したミュージアム「サン・ファン館」のポスターである。フロントに聞くと未だ3・11の津波での影響が大きく、現在修理中とのこと。11月には再開されるとのことであった。

しかし、何かに突き動かされるような気持ちで翌日、合唱団の仲間数人

は石巻線で2駅先の渡波駅まで行き、約2km先の丘を目指して歩いて行った。丘の上に着くと眼下に船首を遥か太平洋に向けた黒船サン・ファン・パウティスタ号が静かに我々を迎えてくれた。船は津波の影響を受け、現在再建中で、我々の外には人っ子一人いない丘の上から30mほど下の湾に停泊していた。風だけを頼りに太平洋の荒波を越えたのか、と何か心を揺さぶられる感動にみな無言でそれを眺めていた。

2014年6月15日奥州市での横浜グリークラブ「父の日コンサート」を終え、一人再建なった「サンファン館」を訪問した。ミュージアムには支倉常長の航海の模様やスペインでの外交交渉の詳細などが描かれた展示があり、また、改修なったサン・ファン・パウティスタ号が停泊していて船の中・外を見ることが出来た。180人の一行と水や燃料、食料を乗せ太平洋を渡りメキシコ・アカプルコまでの航海は如何ばかりの困難であつたろうかと思いを馳せた。

伊達政宗とサン・ファン・パウティスタ号

今から400年ほど前の慶長18年(1613年)伊達政宗は家臣・支倉常長に命じ当時のイスパニア(スペイン)のフェリペ3世との間で交易を開こうと使節を送った。そのために政宗が当時仙台藩に滞在していたスペイン人提督セバスティアン・ビスカイノに協力させ建造した西洋型巨大帆船サン・ファン・パウティスタ号で当時の日本では最大級の船である。

一説には政宗はスペインとの軍事同盟を目的に、それを利用して倒幕をしようとしたとの説もあるが政宗の胸中を覗いたわけでもないのでは定かではない。政宗なら考えそうなことである。

一行（180名）支倉、宣教師ルイス・ソテロは日本からメキシコ・アカプルコに着き、陸路を経由して大西洋を渡りスペインに向かった。フェリペ3世と謁見。交易交渉を行ったが、当時徳川家康のキリスト教弾圧と鎖国政策がスペイン側に伝わり支倉は窮地に立たされた。これを挽回しようとローマに渡り、教皇パウロ5世に謁見した。一行は大歓迎を受け、ローマ市民権を与えられ、さらに貴族に叙された。支倉らは教皇に交渉の助力を頼み、再びスペインのマドリッドを訪れ交渉を行ったが、スペインとの外交交渉は失敗に終わった。1617年7月支倉、ソテロがスペインを離れメキシコに向かった時には随員は、わずか5名に過ぎなかったと言われている。

現在、支倉が滞在していたスペイン「コリア・デル・リオ市」を中心に「ハポン」姓を名乗る人が630名居るそうである。2013年8月にはコリア・デル・リオから合唱団とハポン姓を名乗る40名が来日し、このミュージアムを訪れた。

その後の支倉とサン・ファン・パウティスタ号

メキシコまで戻った支倉とソテロは、そこへ迎えに来ていたサン・ファン・パウティスタ号でフィリピンのマニラ到着後、別の船に乗って、長崎に着き1620年9月22日、ようやく仙台にたどり着いた。しかし、徳川幕府の禁教令で表舞台には立つことがなかった。帰国して2年後の1622年7月1日病没したと伝えられている。なお、その後のサン・ファン・パウティスタ号の行方は分かっていない。

現在のパウティスタ号は復元計画で1993年（平成5年）5月再建されたもので、その後3・11の被害を受け修復されて現在に至っている。

団地の話

89 東山 榮

団地といいますと、住宅団地、工業団地、農業団地、がありますが、ここでは、主として一般になじみの深い住宅団地（以下団地という）についてお話しします。

団地には、公団、都営、市営、私企業等が主体となって建設したものがああります。八王子市周辺においては、いわゆる多摩ニュータウンから始まって、都営長房、中野山王、また、市営では元本郷、大和田、高倉等があり、民間デベロッパーが建設しためじろ台、みつ台、高嶺、絹ヶ丘等数多くの団地がありますが、これらは1950年代後半から開発が始まり現在に至っております。

そこで、このような大規模な開発が進み、団地が数多くできましたが、団地についての定義とか法的根拠というものがあるのでしょうか。そもそも団地という名称は「一団の土地」または「一団の地域」というのが語源となっているようで、そこに立地している一団の建造物の集合体を団地と称しております。

では、つぎに法的根拠はどうでしょうか。ある一部の団地にだけ適用される法律があります。これは分譲マンションにだけ適用される「建物の区分所有に関する法律（以下、区所有法という）」の団地についての条項がありますが、これについては後ほど説明いたします。

そこで、これとは別に、建築基準法では、一敷地一建築物が原則ですが、同法第86条

第1項の一団地建築物設計制度と同条第2項の連立建築物設計制度は、特例として複数の建築物を同一の敷地内にあるものと見做して、建築制限を緩和する制度となっています。

なお、ウィキペディアによりますと「団地は生活または産業などに必要とされる各種インフラおよび物流の効率化を図るために、住宅もしくは目的用途が近似する産業などを集中させた一団の区画もしくは地域またはそこに立地している建物および建造物を指す。」としています。そして、ここでは法的根拠には触れておりません。

さて、前にふれました区分所有法について説明してみたいと思います。

この法律は1963年4月に施行されたもので、当時の主要都市では区分所有方式（一つの建物を複数人で区分所有する）の集合住宅、いわゆるマンションが増大の様相を見せていました。ここで発生したのが、一建物の中で個人の所有する部分（専有部分）と廊下、階段、エレベーター、エントランスホール等共同で所有、使用する共用部分とが存在し、この建物、敷地の所有関係（特に登記上の問題）、管理関係を処理するのに当時の法律である民法では第208条の共有部分についての条文しかなく、これを律するために民法の特別法として区分所有法というマンションの権利義務を規定した法律が制定されました。

この法律は簡単にいうと、マンションという一個の建物を複数人で共有する場合に適用されるもので、アパート（賃貸共同住宅）のように所有者（オーナー）が一個人の場合には適用されません。

ここで、話を団地のことに戻しますが、1983年にはこの区分所有法の中に団地に関する規定が制定され、その適用を受ける条件として、

①一団地内に数棟の建物があること「この数棟の建物」は区分所有建物でもそれ以外の建物（戸建て）であってもよい。

②その団地内の附属施設がそれらの建物の所有者の共有に属すること。

の2点を満たすこととなっています。

このようにして区分所有法の適用を受ける団地型のマンションは、賃貸型の団地マンションと違い、その管理、運営については、まず、管理組合を組織し、定期的に集会を開いて多数決の原理で運営し、管理規約を作る等かなり厳しい制約を課せられています。

以上、マンション以外にお住まいの方には解りにくかったかと思いますが、万々マンションにお住まいになることがありましたら参考にしてください。

トマ・ピケティの「21世紀の資本」に思う

92 杉山 友一

久し振りに学生時代に戻った気分だ。フランスの経済学者トマ・ピケティの著書「21世紀の資本」が、世界で150万部のベストセラーとなって、2014年に英語版が出て、その暮れに日本語版が出され、我が国でもあつという間の15万部のベストセラーである。

評判の経済学書となれば興味津々、早速購入してきた次第だが、まずは本の体裁から言えば、600頁、定価5,500円の大作で、字配りも小さく高齢者には目が疲れるし読破するのに要した時間と気力は大変なものだった。とは言えこの本に出会った喜びは大きい。そもそも経済学は、人間社会の経済活動にはどんな法則があるのだろうかという問いかけから生まれた学問だが、我々の学びの原点は、1776年にアダムス・ミスが著した「国富論」を資本主義の古典と位置づけ、その後、これに対峙するマルクスの「資本論」（資本主義の限界から社会主義の道へと説いた）を経過して、次は一転して「乗数効果」

理論を展開したケインズ経済学へと進み、次いで「規制緩和」を旨とするフリードマンの新自由経済学への流れを学んできたといえる。そして今にしてトマ・ピケティの「21世紀の資本」である。この著作の凄さは、第一にそのバックデータにある。世界の30名ほどの研究者が協力して15年間かけて過去200年間のデータ集積がなされている。説得力は充分である。貫く理論は一貫して不等式 $r > g$ （資本の平均年間収益率>経済の成長率）であるが、これは、論理的必然ではなく歴史的事実として過去から現在への流れが詳細に示されている。因みに経済成長率が1～2%程度でいるときは、何時の時代でも労働所得の収益率は資本の平均年間収益率には遠く及ばず、資産は益々偏在する様が克明に描かれる。そして、労働所得の格差、資本所得の格差、その歴史的必然をそのまま放置するなら、いずれ民主主義社会や社会正義の価値観をも脅かしかねないと言く。繁栄するトップ層の付加価値がやがてトリクルダウン現象で底辺まで及んでくるという理想は、不等式 $r > g$ がある限り実現しないことも本書を通じて明白である。そして最後に、資産格差、所得格差の是正という課題に対する本書の解決策は明快で、国際的な協調税制の下で資産税課税を強化し、再分配のシステムを確立することが望ましいというものである。

ときに、老生は本書の読後、この本では論じられていない社会的インパクト、例えば経済学をはみ出した大きなファクターがある気がしてならないのだ。例えばAI人工知能（artificial intelligence）は、今や世界的に革命期を迎えていて、既に戦慄の人工知能と恐れられている。やがて人間に匹敵する知能ロボットがホワイトカラーの仕事を奪ってしまい、いわゆる富の中間層が没落してしまうのではないかと、昔からコソコソ真面目にやってさえいれば充分生きられた人間たちの居場所がなくなってしまうのではないかと、人間の尊厳にかかわる社会の出現となる恐れはないかという大きな心配である。人工知能が知能労働市場を席卷したとき、トマ・ピケティのいう税制などによる所得の再分配だけでは、「21世紀の資本」問題は解決しない筈だと思えてならない。

ともあれ経済学は、いつの時代も正解の見えない永遠のテーマである。

雑学のすすめ

99 土井 俊雄

私に関しては、年金生活で、毎日漫然と過ごしているので、社会に対する問題意識が希薄になり、どこかに何かを提起することもなく、時流に流されていくことは、本意ではないが、それが現実である。新聞やテレビのニュースだけで話題としては十分であると決め込んで、それ以上のことに取り込むこともない。しかしそれでいいのかと自問すれば不安にもなってくる。

そこで、書物に救いを求めようとすれば、目がかすんで、2時間ともたない。年はとりたくないなと思っても仕方ない。現役時代読んだビジネス書、エコノミー関係の新聞とかは、仕事上の必要性よりも同僚や部下・上司と飲み屋で話をするときのネタとして重要だったように思う。したがってその話の内容は少々違っていても皆が許してくれる範囲であればよかった。

今回プロバスクラブが、20周年を迎えることは、誠に慶賀の至りだが、記念になる何か一文をと言われても冒頭申したように漫然と生きている者にとって格好の材料がない。やはり、本の力を借りてお話しさせていただくことにする。

最近、佐藤優の著書（世界史の極意）NHK出版新書：佐藤優と池上彰との対談形式の（新・戦争論）文春新書、両著は、いずれも面白く、知識欲を大いに満足させてくれた。世界史の極意という書物では、世界史の扱いを、古代から現代まで事実に基づく事象を編年体で表すヒストリーとドイツ語のゲシヒテという二つの概念があることを知った。ゲシヒテは、歴史上の出来事の連鎖には必ず意味があるというスタンスで記述がなされる。また、歴史とは啓蒙によって高みへと発展していくプロセスであるという視点で記述されるそうだ。国益にそって国が言いたいことを巧みに記述するのもゲシヒテという。

日本の歴史教科書は、古代から現代まで、事実に基づき編年体でつづられた事柄を学習するようになっている。いわゆるヒストリーである。つまり日本の教科書が価値観を殆ど発信せず、必要な要素を漏らさないように記述されているのに反し、イギリスはじめ、ヨーロッパの多くはゲシヒテで、歴史上重要な課題は生徒間で徹底論議を重ね、そこから先を見据えるようになっている。欧米の歴史記述にはゲシヒテが多いそうだ。（歴史に限らず、欧米では学校での授業で、一つのテーマを皆で討論する方式がとられるという）どちらの方式にも一長一短があることだろう。

さて、大川周明著の「米英東亜侵略史」を読み解くという文庫本があります。この本は、ペリー来航から現代にいたるまでの日本の外交を通史風にまとめたものを、佐藤優が旧仮名使い、旧文体等を現代風になおすとともに随所に解説を入れ、大変わかりやすい。ちなみに本の概略を紹介すると、第1部、米国東亜侵略史（大川周明）第2部、「国民は騙されていた」という虚構（佐藤優）第3部、英国東亜侵略史（大川周明）第四部、21世紀日本への遺産（佐藤優）という構成だ。大川周明はペリー以来、日本の歴史を分析しながら行く末について、詳しく欧米を研究していた。この書物のカバーに書かれた広告文を紹介すると、真珠湾攻撃直後のNHKラジオでの連続講演をもとに1942年1月に出版された大川周明の「米英東亜侵略史」は、アメリカの対日政策の分析において、客観的および実証的なものだった。なぜ、日本は対米英戦争に踏み切ったのか。アメリカの「太平洋制覇」戦略、執拗な満蒙への介入、イギリス植民地政策の実態などを緻密に分析し、「戦わねばならぬ理由」を大川周明は導き出していた。現在の地盤沈下する日本国家、そして日本人が抱える外交政策の困難な問題を克服するヒントは過去の歴史にあるとの認識から、著者（佐藤優）が「米英東亜侵略史」を丁寧に読み解く。

皆さんは、大川周明と聞けば北一輝と同様社会運動家、旧満鉄・東亜経済調査局に勤め、日本の思想家ともいわれ、日本を戦争方向に導いた故にA級戦犯に問われ、東京裁判では前の席にいた東條英機の頭を叩き、精神異常で免訴されたことを想起するに違いない。佐藤優は外務省でロシア担当当時、ムネオハウス事件で実刑判決のあった鈴木宗雄と接触があった事などでいずれも、ちょっと胡散臭いとお思いでしょうが一読をお勧めする。

青森の祭り

101 佐々木 正

子どもの頃から、というよりも物心のついた時分から、祭と聞くと、からだ全体の血が騒ぐといった経験は、誰もが持っているのではないだろうか。世界に目を向けても、有名なリオのカーニバルやドイツミュンヘンのビール祭はじめそれぞれのお国柄を表わした祭りがあるようだが、世界遺産に登録された地域の知名度ほどには知られていない

ように思う。

一方、日本の祭だが、北海道・東北から九州・沖縄に至るまで、各県別の「日本の祭」一覧表が作られるほどにその数も多く、内容も多彩であり、世界に誇れるレベルではないかと自賛している。近年、外国からの観光客の多くが、特徴的な日本の祭を見に来る、いや体験しにやって来るといった方がいいかもしれないが……こういった現象が目立っているという。

私の場合、勤務の関係で人生のほとんどを東京ないし、その近隣で過ごした者にとっては、本当のところ祭に自ら参加した経験は、出身地の神社の祭程度の経験しか持っていなかったのだが、60歳近くになって、勤務することとなった青森でのまつり体験は、強烈であり、体に染みいついていつまでも忘れがたい。エリアを東北地方に少し広げると、仙台の七夕、秋田の竿灯に、青森のねぶたが三大祭といわれ、とりわけ有名である。何れも七夕行事の一つであるから、8月の上旬に開催され、豪華客船を使ったツアーが組まれるなど、各祭りとも1日あたり40万人から70万人もの人を集めている。

さて、青森県に限ると、ねぶた祭りだが、著名な「ねぶた」だけでも、青森ねぶた、弘前ねぶた、五所川原立佞武多の3つがあり、それぞれに特徴があって懐かしい。青森ねぶたは、「凱旋ねぶた」といわれ、坂上田村麻呂が蝦夷征討のとき、勝利して凱旋する際の行事だったそうで、人形状の大燈籠、笛、太鼓にハネト(跳人)が加わってはやし立てる。立体的な大燈籠は、ねぶた師が構想、下絵から製作まで1年がかりで作る見事な作品だ。これに対し弘前ねぶたは、ね「ぶ」たと発音し、家族が兵士の無事を祈って見送る「出征ねぶた」といわれ、行進も静かで、燈籠も、その多くは武者絵の書かれた扇型である。五所川原の立佞武多は、往時存在したものを復活させたねぶたで、メインの大燈籠は3基しかなく、それぞれが約21メートルもの高さがある巨大な、のっぼのねぶたで、毎年1基を新規に製作し、1基が夏の終わりに、火をかけて燃やされ、送られる。青森にはこのほか、八戸の三社大祭と黒石よされがある。八戸大祭は、昼の祭りで、華麗な飾りと精密な人形が仕掛けで広げると見るものを圧倒する。一方、黒石よされは、徳島の阿波踊り、岐阜の郡上踊りとともに日本三大流し踊りとされていて、8月のお盆時に開催され、青森の早い夏の終わりを感ずるときでもある。

考えてみれば、丁度10年を青森で過ごし、毎年前記の祭りに参加してきたが、とりわけ、青森ねぶたは8月2日から7日まで開かれ、仕事としてなのだが、毎年その期間の中の1日、練り歩くねぶたの最前列を、浴衣姿に提灯を持って大観衆の前をゆったりと進む約2時間は思い出しても興奮する。最後の日の夜は、連続して打ち上げられる花火のもとで、その年の優秀作のねぶたが積み込まれた舟が往来する海上運行で幕を閉じる。囃子と出し物(大燈籠)に踊り



が加わる3点セットの祭りは、他にあまり例がなく、津軽ならではの特徴的なものだと思う。一つの県だけで、このような祭りに加え、親切な地域の人々に囲まれて、各地の温泉や弘前の桜、奥入瀬溪谷の紅葉、加えて、酸ヶ湯の2メートルほどの深い雪など、感銘深い四季の中で日々を過ごせたのは、幸せの一語に尽きる。

先日、奈良への旅行に行ってきました。目的は、自分の家の故郷を訪ねることです。

私の曾祖父が明治18年(1885年)に西多摩郡桧原村から八王子へ出てきました。以前、桧原村に代々住んでいる曾祖父が出た家へお邪魔した時、祖先の話となり、桧原の「桧原ふるさとガイドブック」と「平成3年度、桧原の歴史、春日神社とおとう(お飼)神事」の本を頂きました。それによると、住まいにある氏神の春日神社の祭りに「おとう神事」(東京都無形文化財に指定されている)があり、その神社は代々、神主は吉野家、氏子総代が高畑家と高取家とあります。「おとう神事」は天正3年(西暦1575年)に行われた記録があり、今から400年以上前から行われていたようです。「おとう神事」は、昔、米が食べられなかった時代に関にご飯を捧げ、同時に自分たちも一緒に食べ、五穀豊穡を願うという祭りです。氏子の代表が一週間の禊をし、ご飯を炊き、ご飯を器に山盛りに盛り付け神にささげ、氏子も一緒に食べるという夜を徹した祭事です。ご飯を盛り付ける役を飯盛役として、代々、高取家が担っています。このことから少なくとも400年ほど前から桧原に住んでいたようです。吉野家の口碑によると元暦元年(1184年)に鎮座したとの古文書があるとのこと。春日神社と吉野、高畑、高取というと、奈良の春日大社の近くには高畑町、キトラ古墳と壺坂寺のある街が高取町、その南に桜の吉野山の吉野町があります。頂いた「おとう神事」の冊子には奈良の春日大社と高取町、高畑町、吉野町とは何か関連があると思われると記してあります。

以前から高取町を訪れたいと思い、3年ほど前の2011年12月に出かけました。同時に訪れたいと思っていた町、大宇陀町にも足を延ばしました。大宇陀町は薬の里であり、また、「吉野葛」の産地であります。薬の館として開館した建物は幕末まで薬商を営んだ旧家、藤沢薬品を創設した藤沢友吉の生家でもあります。残念ながら当日は休館日で見られませんでした。

森野吉野葛本舗は、16世紀中ごろから葛を製造しています。冬季に葛の根から抽出した澱粉を楕円形に作られた水槽で何度も冷水にさらし吉野葛を作っています。漢方薬の葛根湯の主原料は葛の根が原料です。その裏山にある「森野旧薬園」は享保14年(1729年)八代将軍吉宗が小石川薬園を開くにあたって尽力し、功労のあった森野藤助に薬草を与え、それをもとに開園したのが「森野旧薬園」とのことです。吉野葛を作っている工場の裏山一帯が薬草園で綺麗に整備されています。



薬草料理

大宇陀町でもう一か所寄りたところは、バス停の裏にある大願寺で、ここでは住職が提供している「薬草料理」があるので予約して寄ってみました。想像していた苦く口当

たりの悪い料理が出るのかと少々不安でしたが、案に相違して大変おいしく薬草が入っているとは感じられない料理です。住職によれば一回の献立に使う薬草は50種くらい、薬効より美味しく食べられるようにと調理しているとのこと、もう一度、行ってみたいところです。大宇陀からは隣の長谷寺まで戻り井谷温泉に一泊、夕食前に近くにある長谷寺を見学、三大千手観音を拝観してきました。

翌日、高取町へ向かい駅前からバスで壺坂寺へ、壺坂寺は眼病にご利益があるとか。本尊は千手観音像、浄瑠璃の「壺坂霊験記」に登場します。帰りのバスを途中で降り、高取の町を散策しました。家々は通りに面したところは縦格子がはめられ、古い街並みのように見えます。一軒、焼き物の店があり、陶器を作り販売しているとのことで2階の



作業場まで拝見しました。その時、高取のルーツに何か関連があるか、また、高取という名前の家があるか、聞きましたが、高取という家は聞いたことがないとのこと、山の上には日本三大山城の高取城があり、幕末に高取城を攻撃する土佐、薩摩軍が軍を置いたところが、今、土佐町、薩摩という地名が残っているとのことで、幕末に町の様子が変わってしまっているとのこと

でした。町並みを歩くと薬局があり、漢方薬の「陀羅尼助（だらにすけ）」の看板がありました。陀羅尼助は1300年ほど前から作られていて黄柏（キハダ）が主原料の胃腸薬で今なお服用されている薬です。高取町にはルーツに関するものは、何一つ見つけれませんでした。帰りに駅へ向かうと駅前に「高取町 観光くすりの町」の看板が出ていました。また、電柱には「高取木材店」の小さな看板を見つけ、高取という材木店があるようです。高取町ではルーツに関するものは町を歩いただけでは見つけることは出来ないでしょうが、祖先の故郷の町と思われる町が、古墳時代から薬草を採取していた場所で、江戸時代は配置薬の産地であり、現在でも町の中に製薬会社があるように高取町は「くすりの町」というのは私としては何か因縁があるような気がします。

以前、春日大社へ行ったとき神官に聞いたことは、昔から春日神社として全国各地に分社しているとのことで、高畑、吉野、高取が昔、春日神社を奉じて檜原村へ出てきたのだと私は想像しています。

瓦 礫

109 久野 久夫

3月11日午後2時46分

「固唾を呑んで見守る」という形容があるが、正にその通りに被災地から送られて来る信じ難いテレビ映像に釘付けになり言葉を失った。直近のニュージーランド、1年前のハイチそして6年前のスマトラ島沖の悪夢の再現となった東日本大震災の惨状である。国難とも言ふべきこの大災害は、近い将来必ず起こると言われる東海地震・東南海地震に対し、実感の乏しかった我々を震撼させ、重大な警鐘を鳴らした。刻々と送られて来るニュースに改めて備えの大切さと有事の際の対応を痛感させられた。(以下略)

～平成23年4月15日号おおり（広報誌）に寄せた文章の一部より

或の日、3月11日以降、私の心に刺さった棘のように引っ掛かる言葉がある。「瓦礫」という二文字である。大辞泉（私はこれが好きで常に身近に置いている）では、瓦礫は①瓦と小石②破壊された建造物の破片など、そして③値打ちのないもの、つまらないものの喩え、とある。①②は兎も角として、③には或の日以降やりきれない想いを禁じ得ない。4年が経った今でも、瓦礫が復興に向けての最大の障害で、邪魔もの以外の何物でもないかのようにニュース報道がなされていることである。確かに我々の目に映るものは破壊された建造物であり、破片であつたりと障害にこそなれ 価値のあるものには見えない。しかし、そこで生活していた人々にとっては大切な家であり、生活を支えてきた会社・工場・商店であり、そして子供達の学校であつた筈である。そして、今でも時折そこで探し物を続けている人達のニュースを耳にする。家族・仲間の大切な思い出の品々を探し求める姿である。

必ずしも復興が十分に進んでいない現在ではあるが、それでも人々の生活に落ち着きが出てきている中、被災された方が一番恐れているのが「忘れ去られる」と聞く。確かに当時は国内のみならず世界の耳目が集まり、様々な支援やボランティアが押しかけたが、現在はそれも極く極く限られた活動となっている。時間の経過は時として、心の傷を癒してくれる反面、大切なものを忘却の彼方に押しやってしまうという残酷な一面をも持ち合せている。或の日、一体何が起ったのか、また、現在がどうなっているのかを常に心に留めておきたいと思う。そして、瓦礫という言葉をやたらと使わないよう心に決めている。

素晴らしい日本人の生き方を戻せ

110 荻島 靖久

今日の日本では、警察官や教師による不祥事、子供による親殺し、親による子殺し、信じられないような事件が、日常的に起きている。企業による表示のごまかし、虚偽があり、人間のいのちにかかわるような重大なウソでさえ平気でつかれている。教育現場でも「いじめ」の問題が深刻さを増している。

今、日本人の規範意識に異変が起きている。こうした現象は、かつての日本ではありえなかった。美德、強い絆、正直、誠実を貴ぶ気風、いじめを許さない心が共有されていた。

戦後 70 年、日本はめざましい経済の繁栄を遂げてきた。物はあふれ、生活はとても便利になる。しかしこの間、これまでの日本の家庭や地域、職場などで継承されてきた伝統はなおざりにされてきた。

核家族化が進行し、親が子を育てられない。例えば、子供を車の中に置き去りにしてパチンコする母親、添加物だらけのインスタント食品を一人で食べる子供、公共の場のマナーが守れない親子、こうした現代日本の子供は、親からも、地域の人々からも、学校の先生からも、日本の伝統や文化、日本人が大切にしてきた価値観や生き方を教わらないまま成人するようになっていく。

また、失われた日本人の知恵も問題である。日本人はこれまで、「お天道さま」という、目に見えないけれど確かにある（命の根源）の力を信じて、大切にしてきた。「食べ物を粗末にするとお天道さまに申し訳ない、目がつぶれるよ」日々の生活の中で教えられて感謝の心を養ってきた。この「目」とは「心の目」のことで、「心の目」を失うと「ありがとう」という感謝の心をもなくし、「人でなし」になると教え、戒めてきたのです。この「お天道さま」とは太陽のことではありません。太陽や地球など、すべてのいのちある物を育てた、もっと偉大な力のことを日本人は、「お天道さま」とよんできたのです。

「食卓からの出発」という言葉がある。食卓は、親しみと安らぎを養う家庭の中心であり、躰の場でもある。かつては、ほとんどの家庭が食事は家族全員で食べ、「いただきます」「ごちそうさま」とみんなで合掌し、食事をする中で、いただいた「いのち」や「いのち」を育んでくれた自然、農家や漁師の人たち、食事を作ってくれた人に対して、感謝の気持ちを捧げたのです。

このように日本人が大切にしてきた生活習慣はどのようにしてきたか。年の初めに鏡餅のお飾りなど年中行事に込められた意味「だいたい」家が代々栄えるよう「うらじろ」裏を返して心は白い、夫婦円満の象徴「ゆずりは」良縁を子孫に譲り家族の繁栄を祈る。私たちの先祖は、よいものを継承し、工夫を重ねて、技を磨き、心の修養に努め、徳を

高める生き方をしてきたのである。その輝きを戻すためには、私たちの先祖がどのように生きてきたのか、歴史を学ばなければならないと思う。

健康寿命とピンピンコロリ

113 岩島 寛

H22年の日本人の平均寿命は男性 79.64 歳、女性 86.39 歳、一方健康寿命は男性 70.42 歳、女性 73.62 歳です。その差は、男性 9.22 年、女性 12.77 年です。つまり、不健康な期間＝介護される期間が 10 年前後あるのです。この差が 0 年の人がピンピンコロリの人です。これが理想であります。

さて、当八王子プロバスクラブ会員の平均年齢は約 77.5 歳です。そしてこれら会員の方々は健康だからこそ当クラブに参加されている。と言うことは当クラブの会員の健康寿命は少なくとも 77.5 歳以上であるということが言えます。そうしますと、例えば男性の平均寿命は約 80 歳ですから、当クラブの男性は日本人の平均寿命と当会員の健康寿命の差は僅か 2.5 年ということになります。日本全体では前述のとおり 9 年の差があるのに、当クラブの会員は僅か 2.5 年の差、しかも、もっと縮まる可能性があります。

この事は、会員本人や家族の喜びであると同時に介護費用の節減という面で国家予算の面においても大いに貢献しているのです。

ちなみに、例えば 80 歳の方の平均余命は、H24 年時点で男性 8.48 年、女性 11.43 年ですから、現在 80 歳の方ならば男性 88.48 歳、女性 91.4 歳までは生きられるということです。(75 歳の平均余命は男性 11.57 年、女性 15.27 年、85 歳なら男性 6 年、女性 8.1 歳) これだけの余命がある訳ですから、肝要なことはこの余命を如何に健康であり続けて、理想のピンピンコロリに近づくことができるかであります。

ピンピンコロリに関連して、インターネットで「ぽっくり寺」を調べてみましたら、一番に八王子のお寺が出て来ました。

お寺の名は桃源山「龍泉寺」別名「ぽっくり寺」。場所は八王子市長房町 16。浅川の水無瀬橋を渡り、ガソリンスタンド(ESSO)の次の一方通行の道を左折したところ。開山は永禄元年(1558 年)、北条氏照が開基(援助者)となって、牛秀上人の高弟来給上人によってこの地に創建されました。ここは、八王子三十三観音霊場第十三番札所になっています。山号の桃源山は、この地(長房丘陵の東のはずれ)が中国の伝説の地、武陵桃源に似ているところから付けられたといひます。武陵桃源とは桃源郷ともいい、理想郷のことをいひます。当寺の位置するこの地域は、字名を水崎といひます。この辺りが長房丘陵の先端で、雨が降ると丘陵の先端部から水が吹き出すように流れ出ることに由来するようです。そこから、この聖観世音菩薩は、「水崎観世音」と呼ばれ、一般には「ぽっくり観音さま」と呼ばれ、宗派に関わりなく、多くのお年寄りに親しまれています。いつの頃からか、この観音様に祈願すると、下の世話にならずに、寝込むことなく、寿命の尽きる時まで健やかに暮らすことができると言い伝えられています。お寺の入り口には、「極楽へ 渡る川瀬の 水崎や 思わで頼め 十声一声」と書いた石碑があります。ご開帳は春秋のお彼岸の時期で、この期間は大変にぎやかだそうです。「とんとんむかし」(菊池正著・東京新聞出版局発行)に「ぽっくり観音さま」の言い伝えが昔話として紹介されています。

ピンピンコロリの願望は昔からあって、今日もまたこれからも続いて行くでしょう。

難病の子どもたちのため宿泊施設建設
「みんなのふるさと“夢”プロジェクト」
＝「あおぞら共和国」は今…前進中です

114 飯田 富美子

私はさる4月25日「あおぞら共和国」建設のための第2回チャリティーウォークに参加しました。これは山梨県北杜市白州の地に難病の子ども達の宿泊施設を建設するために支援組織が呼びかけたイベントです。各種団体やインターネット等で応募した一般の方々など今年も200名近くが参加しました。

当日は絶好の天気恵まれ、私も目的地までの山道12キロをしっかりと完歩しました。また難病の子どもたちも大人の方々に支えられ、カートや車いすで一般道を目的地まで一緒に到達できました。彼らとは所々で出会う事もあり頑張っている姿をまじかに見ることができ感動しました。

当日は8時30分にJR中央線の日野春駅に集合し、9時にスタート。八ヶ岳や南アルプス、甲斐駒ヶ岳、残雪の白州の山々、新緑や山桜が目を楽しませてくれました。鶯や小鳥たちのさえずりも心地よく、自然道という山道ウォーキングは最高の癒しの道でした。途中で頂いた昼食もご当地ブランド武川米で握られたおにぎり、抜群の美味しさ。目的地である「あおぞら共和国」には15時頃着きましたがこちらでは早くに着いている人達により手作り料理も振る舞われ、自閉症の子らは太鼓や踊りなどを楽しんでいました。このプロジェクトは高校の後輩、相模原で開院しているおぐちこどもクリニックの院長小口弘毅氏(64歳)が2011年の夏に、難病の子どもたちのためのキャンプ場建設計画「みんなのふるさと夢プロジェクト」を提唱し進められています。全く外の世界を知らずに育っている難病の子どもたちを自然の中に連れ出すお手伝い、一般の宿泊施設に泊る旅行などしたことのない難病の子どもたち、その兄弟、親たちの宿泊施設の建設です。昨年2棟が完成し今は3棟目を建築しています。昨年秋から利用も始まり「笑顔を沢山見ることができるようになりました」と小口氏は大変喜んでおられます。小口氏の根源にあるもの、それは“生命”を救う医療から、“いのち”を育む医療へ転換しなければならない。そのためには今できる何かのお役にたつことをしなければならないという強い信念から来ています。

小口氏は「私は命の誕生の瞬間、あるいはもっと前の胎児期から子供の病気に関わる新生児科医として20年間大学に勤務し、その後は開業医として地域の子ども達の病気を診ていますが、同時に子育て支援、さらに障害児の相談と療育を行っています。日頃から沢山の子ども達に接している私は、子ども達こそ希望であり、未来であると心から思います。同時に子どもは自分の未来を真直ぐに見つめている存在だとも思います。そのためにはささやかではあれ風のそよぎ、小鳥のさえずり、満天の星を体験させてあげられるよう『あおぞら共和国』を建設しようと考えたのです」と。“生命”を救う医療とは乳児死亡の半分以上が生後28日以内に死亡することから新生児死亡を少なくする医療です。幸い最近は重篤な新生児はICUに入院させ、多くの新生児の生命が救われるようになりました。さらに最近では超音波断層図などの導入により胎児情報が正確に得られ胎児の治療も試みられるようになりました。これからは残された難病や重度心身障害児医療が大事ですが、特別な根治治療がなく短命であることから、長い闘病生活を支える緩和医療が必要になってきています。その面で

家族とともに安らぎの時を持つ場所が必要なのです。

1982年にイギリスで設立されたヘレンダグラスハウスは、そういった場所と時間を提供する世界初めての子どもホスピスです。日本の難病疾患は500種、難病を抱えている子どもたちは20万人、さらに重度心身障害児は4万人います。20年以上前から難病を支える活動は続けられていますが、一般宿泊客と一緒にキャンプは制約も多く、常設キャンプ場の建設が難病ネットの最大の悲願となっていました。

3000坪の山林を難病ネットに寄付されたのを機にキャンプ場建設の思いは強く「みんなのふるさと夢プロジェクト」として発足させました。理想のあおぞら共和国が完成するまでにはまだまだですが、引き続いてしっかりこのプロジェクトを推進していきますとも。

この提言に賛同した彼と同期の仲間、同窓の仲間たちに声掛けし甲府一高OBによる難病の子供を支援する「あおぞら会」が立ち上がりました。今まさにこのプロジェクトが力強く前進していこうとしています。

私も小口氏からこの話を伺い普段あまり気にも留めなかった孫の世代の難病の子どもたちの事、この子どもたちに一人でも笑顔が欲しいと強く願わずにはられません。

ささやかであってもしっかりサポートしていこうと私も心に誓いました。難病の子ども支援の輪が日本中にさらに広がることを念じつつ…心地よい疲労を覚えながら帰路につきました。

故郷と終の棲家

118 馬場 征彦

故郷（ふるさと）とは不思議なものです。生まれた市町村に引き続き住んでいる方々は、心から羨ましく思いますが、一方では故郷に対する思いや情感はなかなか理解できないのではないのでしょうか。

故郷とは何でしょう。私の場合、最も長く住んだ市町村は八王子市で既に37年近くになります。

写真は宇和島城（宇和島観光協会HPから）

次は、大阪府寝屋川市で約11年弱、台湾の台北市が7年強、愛媛県宇和島市が5年強の順ですが、故郷意識を持つのは住んだ期間では4番目の宇和島市です。この地を故郷だと強く感じるのは、「父母の出身地である」ことが大きな要因の一つだと思いますが、多分決定的なのは「小学校時代を過ごした土地である」ことではないかと思います。大阪府へ転居した後も、小学校時代の4年と5～6年の二人の担任の先生や、数人の級友たちとは長く年賀状を交換してきました。同級生のうち3人とは今も年賀状交換が続いていますし、その内1名からは、折に触れて故郷の情報がメールで届きます。最近の話題は、宇和島の郷土料理店が東京の麻布に出店したというニュースでした。

小学生のころは、級友や近所の遊び仲間との交わりの中で、町名や祭りに関わる寺社等の情報が自然と身につき、近隣の駅、山川、島や岬の名称にも土地勘が出来ましたし、花見を始めとする年中行事にも家族や親戚と親しんだものです。今でも



宇和島市周辺の地名や食べ物には勘が働くのです。また地域の歴史や文物についても、小学校時代に学びかつ見聞きしたことが自然に記憶に残っています。多くの事柄が経験を伴って記憶の中に生きているように思います。“故郷は美化された思い出の中にある”とも言えます。「故郷は遠きにありて思うもの」は実に的を得た表現だと思います。

翻って、最も長く住んでいる八王子市については、町名や祭り（及びそれに関わる寺社）等についての知識はほとんどなく、毎年耳にしても右から左へ抜けてしまい、知識や土地勘として容易には身につかないのです。土地勘を見につけるには、少なくとも中学生頃までに地域にどっぷり浸って生活することが必要なのかもしれない。

とは言うものの、私にとって八王子市は「終の棲家」になることは間違いなく、父母の墓所も菩提寺も八王子市内でお世話になっています。会社生活を卒業してからは、遅まきながら地域の中で生活することの重要性を強く感じました。地域を理解するためにと調べて“とんとん散歩の会”や“八王子市の生涯学習センター”の存在を知り、夫々 5 ～ 6 回参加してみましたが、なかなか仲間として溶け込めないうでした。

そんな折、趣味のゴルフを気楽に楽しもうと立ち上げたKS会（2008年4月に第1回ラウンド、当初「北野台相武会」、今は「健康相武会」）の場で、同じ町内の後藤一郎様（後に日野プロバスクラブ会長）のご紹介で参加された杉山友一様の知遇を得たことが大きな転機となりました。2010年3月に当プロバスクラブの会員に推薦して頂き、幸運にも八王子市在住の各方面で活躍された多くの方々との交流が始まったのです。これからも、「終の棲家」の八王子市について、地名や自然・歴史・文物等を大いに学び、よく理解して行きたいものと考えている次第です。



写真は、いちょう並木（八王子市役所HPから）

チェンジ・ザ・ルール！

119 田中 信昭

1980年頃の話である。私は当時40才の働きざかりであった。社命でアメリカ・ルイジアナ州の州都であるバトン・ルージュに派遣された。町をミシシッピー川が悠々と流れており、トム・ソーヤの冒険を彷彿とさせる雰囲気であった。平屋のホテルの窓際の林の梢には愛くるしいリスが走り回っていた。着任当時はアゼリアの花が真っ盛り、三つ隣のジョージア州オーガスタでは「マスターズ」の真っ最中で、若干23才のスペインの若者セベ・バレステロスが優勝した年であった。

アメリカが絶頂期の勢いを失っている一方で、日本は飛躍的な経済発展を遂げ、エズラ・ヴォーゲルの「ジャパン・アズ・ナンバーワン」などと世界中からもてはやされ、有頂天になっていた時代である。しかし、例えばグランドキャニオンのような国立公園にドライブに行っても、綺麗なトイレは勿論、広い駐車場にはキャンピングカー用に、必ず道路脇に給水と排水の為のジョイント口、それにバッテリー充電用の

コンセントが設けられており、この国の底力を見せつけられた思いがしたものだだった。

世界に冠たるケミカル会社であるE社に技術輸出でケミカルプラントを建設するために、私は技術指導という立場にあったので、つき合う相手の方々は皆さん、私の言うことを理解しようとされるし、私にも判るように話してくれるという至ってラッキーな状況であった。

ある日、お誘いを受けて近くのカントリークラブへゴルフに行った。テニスやゴルフをプレーしている他にも、サロンで談話を楽しんでいる人達、子供連れで食事をしている家族、正にカントリーライフをエンジョイしているという雰囲気であった。プレーを終わって上がってくると、早速ゲームを楽しんでいた仲間の連中が声をかけてくる。

「ゴルフの方はどうだった？」 答えて「天気はよかったね！」

当時、バックギャモンというゲームが流行っていた。同伴のエンジニアの一人が「ところで、そっちのゲームの方はどうかね？」

「さっぱりダメで、負けてばかりだよ」

間髪をいれず茶化した言葉が「チェンジ・ザ・ルール！」一同爆笑。

向こうの連中のこんな他愛のない軽妙なやり取りの一シーンであったが、その後も、妙にこの言葉が忘れられず、その後も「そうか、旨く行かなければ、ルールを変える…か」と強く心に残った。

その後、アメリカを始め西欧勢の逆襲はすさまじく、新しい経営スタイル、ISOの何番とかの管理ルール等々、国際標準と称して彼らの有利なルールを持ちこんで、圧倒して来たなという強い印象であった。

2 足の草鞋で頑張った日々

121 山形 忠顯

東京学芸大学を卒業した後、生涯に亘って声楽演奏研究を続けようと心に決めて、私は二期会研究生の試験を受けて9期生となった。同期生は音楽大学や大学院出の逸材揃いであった。二期会研究生は、プロとして活動しうる実践的な演唱表現力を有する声楽家養成制度で、半年、1年毎に篩に掛けられていく厳しい修業が課せられるが、会員相当と認められれば、ベテラン声楽家に伍して、共に切磋琢磨し乍ら声楽芸術活動する道が開かれる。2年間の悪戦苦闘の甲斐あって、私は二期会会員テノールに加えられることになったが、本格的に演奏活動を始めたのは、「立川澄人とクール・アベイユ」のメンバーになってからである。NHKがTV番組「音楽をどうぞ」のためにつくった名バリトン立川澄人をリーダーとする混声ダブルクワルテットで、私はトップテノールを唄うことになった。全国各地を忙しく演奏旅行し、クラシックからポピュラーまで多彩なプログラムを唱って自分のレパートリーも広がっていき、東京文化会館等の大ホールで歌声を徹し拡げる術も身につけていった。

こうした仕事のお蔭で生活も安定し、少々、貯えが出来たので、西欧に渡って更に声楽を究めたくなった。2年程度留学したい旨を恩師柴田睦陸先生に相談申し上げると、「駄目だ。声楽は最低5年以上、言葉から生活習慣総てを含めて学ぶのでなくてはならない。藝大で地道に学び、オーソドックスなオペラプロデュースのあり方を研究してはどうか」がお答えであった。そのご指導に従って東京藝術大学大学院

オペラ研究室に入学したのは30歳になる年だった。基礎ボディワーク、バレエ、フェンシング、基礎演技、朗誦法、日独伊仏歌曲、オペラ実習、そしてオペラ公演、遙かに若い学生仲間達と共に汗を流すこと5年、やっと納得できる声楽家像を得ることができた。

それではと、藝大から推薦されて赴任したのが、新潟大学教育学部高田分校音楽科教官であった。辺鄙な田舎町の大学だったが、全国8拠点に置かれた特別教科教員養成課程音楽の一つで、特設・二類の書道・美術・体育科を併せて、芸能4教科による独立した1大学設立を構想しており、市長を先頭に市を挙げて新潟地区への教育学部移転統合反対運動が展開されていた。

私は、まず、先輩教官の協力を得て、学生が総合的に音楽を学ぶことができ、学校教員として実践的指導力が身につくオペラを制作・公演することにした。音楽科のみならず分校全体の協力を得て、昼夜2回のオペラ「魔笛」公演は、1300人を動員する盛況、成功だった。

次には、市民皆で集まって音楽づくりして町を活性化しようと、ベートーヴェン「第九交響曲」を提唱した。合唱は公募して中学生からお年寄りまで、管絃楽は市民オケの上越交響楽団、指揮者・ソリストも上越市在住者という手弁当、手づくりの制作・公演を行なうことができた。演奏会場は多目的体育館だったが、これを機に上越市に芸術文化会館建設をと働きかけ、市民の熱意が実って間もなく立派なホールが出来上がった。

また、高田分校の毎年の「メサイア」公演は永らく市民に親しまれていたが、高田分校の新潟地区への教育学部統合移転が決まり、上越市に教員のための大学院大学が設置されると消滅してしまった。然し、それを惜しんだ市民たちは程なく「メサイア合唱団」「メサイア合奏団」をつくって、伝統の「メサイア」公演を復活し、それは恒例となって現在に至っている。

私が、学校教員養成に力を尽くし、「魔笛」、「第九交響曲」、「メサイア」の制作・公演に関与し、自己の声楽演奏研究に励んだ上越市の31年の歳月は遙か昔のこととなったが、想起する度に胸が熱い。間もなく喜寿を迎えるが、雀百まで踊り止めず、で居たいと思う。

生涯学習サロンについて思う事

123 寺田 昌章

地域奉仕委員長を仰せつかり、第19回生涯学習サロンを企画、運営をしてきましたので、その過程で感じたことを述べてみます。地域奉仕委員の具体的活動内容を全く知らずに、いきなり委員長を仰せつかったので、どんなことを各委員に分担して良いか全く分からなかった為、かなりの内容を一人でやってしまった感がします。前年度を含む歴代の地域奉仕委員長のノウハウの塊であるマニュアルを見ながらやれば、出来ないことはないがこのやり方では委員長が相当な負担を強いられるし、引き受け手がいなくなることを懸念します。

そこで過去の経験者の間で分担案を討議して、やり方を考えてみると良いと思いますが、とりあえず私案を述べてみます。

まずサロンの企画を立てるには、前年度の情報把握をしておく必要があります。

つまり、前年度の生涯学習サロン開催中にプロバス会員、一般会員全員にアンケートを配布・回収し、結果を参考にできるようにする。これは新年度になってからプロバス会員へアンケートをするのではタイミング的に遅いためです。現在着手中です。

各委員でかなりの事を分担するべきで、サロンの企画では、サロンの開催時期、回数(3週×4講座をどうするか)、特別講師の選択(担当を決めたらその人が責任を持って講師への依頼や、講演テーマの概略内容や略歴、講演時の必要機材や要望事項、レジュメ、当日の応対等を行ってもらおう等)をどうするか、又サロン講座のテーマと人選(これも分担して講演テーマ・概略内容の提出、講演時の必要機材や要望事項、レジュメ等責任を持って行ってもらおう)をどうするかも同様に分担者を決める。

この事だけでなく全ての事項で、委員会で意見を出し合い、大まかな方向を決めたら、あとは委員長宜しくでは委員長の負荷が大きすぎる。

又野外サロンの候補地探し(現在バス料金が上昇しており、有料施設使用はサロン代金高騰につながる)とその概略内容決めが必要で、これも分担して決めてもらい、最終的にはバス会社決め、旅行内容、金額決定も分担してもらいたい。

学習サロンの第1の節目は、サロンのお誘い(含むカリキュラムと日程、特別講話の講師紹介とサロンの概略内容)のセット(一般会員向けハガキ、振込用紙)の印刷を完了させ、12月の例会で配布できることが最初の節目となる。ここまでがかなり大変だが、分担した場合は、まとめ役の委員長が、日程の取りまとめでかなりイライラしそうですが、ここまでの内容が分担できれば委員長はかなり楽になります。

この後八王子市役所への申請、マスコミへの掲載依頼(関係深い人に依頼)、プロバス会員や一般会員(全登録者)への配布が始まるが、それほど大変ではない。

参加者をプロバス会員、一般会員それぞれに分けて参加人員(特別講座、サロンのテーマ毎)の把握と参加者リストを作り上げる。この作業は中々回答・返事が集まらず、全体の把握が難しい。特にプロバス会員の反応が極端で、早い人はすぐに回答して頂けますが、遅い人は期限になっても無回答の人がいるのは困った事です。参加者に関して特に野外サロンは、大体バス2台(45人/1台)で85人位がブレイクイーブンになる予定で設定しています。従って参加人員が減少すれば、大きな赤字に繋がります。参加人員がどうなるかは大変心配です。

名札に受講者名を入れて印刷するには、受講者リストを印刷所に出さねばならないが、開講日数日前とか開講日前日に申し出があった場合は対応がつかない。今回たまたま自分で名前貼り付け印刷をしたので不便はなかったが、印刷所に頼む場合は問題が出る。

手書きでも問題はないが、リピーターの人には今年は手抜きであると映る。

又各サロン講座の参加人数に応じて使用する部屋決めが必要になる。部屋が決まないと印刷に入れない。これらの事で印刷所は勿論、印刷を依頼する方も大変です。

開講式までに開講式次第や、来賓名、特別講話のテーマ等開講式に必要な印刷物の手配や、会場レイアウト決め、参加者一覧表作り等が必要になる。この開講式までが第2の節目となる。

分担で大切な点は会計係りの決定と分担があります。サロン参加費の入金把握、当日の茶・菓子代のお金あわせとエルシィへの支払いが大変。サロンが始まれば各部屋の参加人員把握と全体参加人員との数合わせ、とお金合わせが会計係りとして大変。

予定した人数より参加者が少なければ、その分は茶・菓子代が赤字になる。

この他赤字を気にしなくてはならないのがさよならパーティーの出席者数です。事前調査の参加希望者数で料理を発注しますので、当日キャンセルが多く出るとこれも困ることになります。

この他、各委員会に分担してやって頂いている受け付け作業、集金作業、記録作業、サロン会員誘導等大変助けられており、感謝あるのみです。これらの作業では経験者がいれば大変スムーズになります。

勿論生涯学習サロンは全員参加でやるプロバスの大きな事業の1つですから、当たり前ではありますが、この感覚が薄れておられる方がいるのは残念です。

プロバスの会員のみならず、一般参加者も高齢化しており、いわゆるリピーターの人達の参加が減少してきております。最初にお送りしたリピーターの方達から返事を頂けたのは約半数で、その中で体調が悪くなったので不参加と云う返事を頂いた方もありました。実際に参加された方は全リピーターの39%でした。19回は新規参加の方が23名で参加者全体の1/3弱でかなり助けられました。これはプロバス会員が追加でお声をかけて頂いた賜物です。皆様のご協力誠にありがとうございました。

世帯交代をどうやって行くか難しい問題ですが、衆知を集めて取り組まないといけない問題だと思います。検討委員会（プロバス自身の問題、地域奉仕の問題）を作る時期だと思います。

「戦後70年」に想うこと

124 河合 和郎

青く澄んだ八王子の空を今日も旅客機が西に東にと間をおかずに飛んでいる。平和で穏やかな大空だ。しかし、70年前、この八王子の空は戦場だった。人々は不安げに空を見上げ、「B-29だ」と口々に叫んでいる。高射砲の白煙がはるかに下の方で弾けた。

日本軍の戦闘機が1機また1機、B-29に迫る。空中戦が始まった。そのうち戦闘機の1機がB-29に体当たりをした。翼を挽がれたB-29は、ひらひらと舞うように落ちてくる。落下傘が2つ、3つと開いた。見上げていた人達から歓声が上がった。

これは昭和20年の八王子の夏空の光景である。私は震えながらこの光景に見入っていた。大空もまちも正に戦場そのものだった。

ここに地元の中学校一年生の作文集がある。「戦争体験を聞く」というタイトルの謄写版刷りの小冊子である。その中に、私の息子の作文が載っている。タイトルは「この世からなくしたい戦争」となっている。少し引用してみよう。

「この話は父から聞いたものです。父は昭和17年に小学校に入学しました。空襲があるたびに、学校の勉強を止めて、家に帰ってきました。だから、落着いて勉強ができませんでした。昭和20年の夏、八王子の町が一夜のうちに焼け落ちてしまった。これは、空襲でB-29の大編隊が八王子のまちに焼夷弾を雨のように落したため、まちが火の海になってしまった。大勢の人が死んだり、ケガをしたりしました。

八王子のまちは、今、美しいまちに生まれ変わっているが、戦争で死んでしまった人の命は、二度と帰ってこない。だからぼくは、戦争なんて二度とやってはいけないと思う。

終戦をむかえると、一層食べ物が少なくなり、明日食べるものがない日もあったと

いう。着るものも少なく、兄弟の古い着物を、母親が夜遅くまでつくろって直した。運動靴も買えなかった。雪の日でも素足にゲタをはいて学校に行った。

ぼくはこうした話を聞いて、多くの人達がむりやり戦争で死に、空襲で死んだ人がかわいそうだ。戦争はやってなんの利益もない。戦争の残すものは、悲しみや苦しみだけだからだ。そんなものこの世からなくしたい。もし、戦争で使う武器をつくるお金があるのなら、そのお金は、世の中の平和のために使ってほしい。テレビで国際障害者年の“地球の仲間”のうたを聞いた時に、こうした人たちのために、もっとたくさんのお金と温かい心が必要だと思う。」

現在、息子は40代半ばである。こうした純粋な思いをどのくらい持ち続けているだろうか。戦争体験は知識としては伝えられても、痛みや恐怖、空腹の辛さは伝えられない。

賞味期限と称して、まだ食べられる食材を大量に捨てている現代人にとって、飢えの辛さや「食える」ことへの幸せを実感することは難しいことだろう。

戦後70年、まだ「先の大戦で……」と繰り返さなければならないもどかしさ。もういい加減で幕を引く知恵はないものだろうか。未来志向の友好関係を築くにはどうすればいいのか。英知を絞って「日本の在り様」を見付けたいものだ。戦後70年、これからも100年、150年と「戦後であり続ける」にはどうしたらいいのか。戦後70年の今年こそ、この課題を解決するきっかけの一年であって欲しいと願って止まない。

学校3年生の小学夏休み

128 岡部 洽

これは、忘れようとしても絶対に忘れられない、強烈な出来事のあった夏休みです。昭和20年8月2日の明け方、八王子市は空襲に遭い、一面焼け野原になりました。一度空襲警報が解除になり、その寝入りばなに、本物の空襲が来たので、父に起こされた時は、寝ぼけ眼^{まなこ}でした。暫く防空壕で待機してから逃げ出した時、私の家の本堂がメリメリと音をたてて、火に包まれていました。地面で火を噴いている焼夷弾を飛び越え飛び越えて走り、富士森公園の方へ逃げる途中で、防空頭巾を防火用水で水浸しにしてかぶり火の粉を避けました。燃えさかっている台町病院（今の市民体育館のあたり）の前を駆け抜け、山田川の流れに入ってB29が飛んで来る南側の土手に張り付いて、家族全員で空襲が終わるのを待ったのです。夜が明けて家へたどりつくと、家がありません。屋根に葺かれていたはずのトタンが地面を覆い、煙が立ち上り、遥か北の方に、これまでは家々の陰で見えなかった「やすどの山」が見えるのです。家族全員呆然としたのを強烈に覚えています。

8月15日、ラジオで天皇陛下の玉音放送があり、聞いていた大人から「負けた！戦争が終わった」と聞かされました。もう大丈夫だということで午後、近所の悪ガキ5、6人でしん川（今の湯殿川）に泳ぎに行った時、アメリカの戦闘機が飛んで来ました。ガキ大将が「大丈夫だって言うから手を振ってみろ」と命令しました。これまでは姿を見せれば間違いなく機銃掃射されたのです。誰かが思いきって手を振ったのですが、飛行機は何もしないで飛んで行きました。この瞬間、私は戦争が終わったという事を実感しました。

夏休みは終わったのですが、空襲で第3小学校の校舎が全焼してしまった為、少し離れた第6小学校を間借りして授業が始まりました。教科書がありません。学校で用意してくれたのはガリ版刷りのわら半紙をそれぞれが自分で四つ切りにして使うものでした。6小の子どもに学校の行き帰りにいじめられたので、集団でいつも登下校したものです。クラスの男の子が1人で下校してそのいじめに遭い、線路伝いに逃げて電車に轢かれて亡くなりました。葬式で弔辞を読みました。その子の両親の^{おえつ}嗚咽が今でも耳に残っています。

夏休み前の軍国主義の教育から夏休みあとの民主主義の教育への大転換は、子供心にとにかく大きな「教えられることへの不信感」を生み出したのです。でも今考えれば、その当時の先生方は子どもの何倍何十倍の戸惑いの中にいたのだらうと察しられませんが、わずか夏休みの前後での大変革は、右へ進めと言われていた進路が急に左へ進めに変わったという事であり、これからも絶対に経験できない貴重な体験だったと思っています。

そんな大変な前代未聞の「小学校3年生の夏休み」を私は忘れることが出来ません。

記念誌編集チームからひとこと

20周年記念会員寄稿文集、略して「記念文集」の編集は、今回気使いの多かった草稿の一つである。

というのは、記念事業実行委員会の方の意見は、前回までの記念誌発行の時期と異なり、今やわがプロバスクラブにおいては、ホームページが充実してきており、そのことを記念誌に反映したうえで、掲載記事の構成を考えたらどうかということであり、その結果として、プロバスだよりもに掲載している「自主投稿記事」「卓話要旨」については、プロバスだよりも掲載のテーマと号数を記念誌に記載することによって記事を容易に索出できるようにし、生涯学習サロンについても、カリキュラムを記念誌に掲載しており、同じく必要に応じて取り出せるので、記念誌には会員のかかわった記事を再掲載することを取り止めた次第である。

さてそこで、記念文集についてということになるが、「会員紹介」欄のエッセイは会員全員に原稿をお願いしているから心配ないが、こちらの方は、今回は、20周年であるばかりでなく、戦後70年の節目でもあり、できるだけ多くの会員から記念文集に投稿願いたいただきたいとの趣旨でお願いした。

投稿数は多ければ多いほど大歓迎だが、強要できるわけもなく、どのくらいのが揃うか心配の日が続き、かつ締切りを若干の期間延長したりして、最終的には半数には及ばなかったものの、それぞれの会員の方々のお人柄がにじみ出ている玉稿を頂けたことは、感謝の一語に尽きる。

Ⅲ. 会員紹介

会員総数 69 名について、顔写真を添えプロフィールの一端を紹介し、合わせて、会員執筆のエッセイを掲載した。

紹介欄の説明

会員番号 氏名（ふりがな）	
① 入会年月	⑤ 現役時代の主な経歴
② 生まれた年を西暦で	⑥ 座右の銘
③ 出身地	⑦ 趣味
④ 住所（市と町名のみ）	⑧ プロバスだよりへの投稿 掲載号数とテーマ

会員各自の書いたエッセイ



会員番号5 石田 雅巳 (いしだ まさみ)

- | | |
|-------------|----------------------|
| ① 1998年2月 | ⑤ 医師、八王子保健所長 |
| ② 1931年 | ⑥ ありのままに、いつも温かい心を持って |
| ③ 東京都 | ⑦ オペラ、コーラス |
| ④ 相模原市南区東林間 | ⑧ 211 年齢をとるということ |

思いつくままに

WHO（世界保健機関）によると、「健康とは単に病気がないということではなく、心理的にも肉体的にも Well-Being な状態にあること」である。

私は、本来産婦人科医であるが、保健所の医師として、地域と共にある医療（公衆衛生）を経験、定年後には、老人保健施設で働く機会をいただき、さまざまな人間像に接し、とりわけ高齢者に対しては、全人的な理解が必要なことを痛感した。

当時の入所者は、ほとんどが大正生まれであり、戦後の日本を支えて来られた方たちであった。男はある程度生きたいように生き、物も言えた時代であったが、女はそうではなかった。平成の今もなお男性主導型の生活がいたるところに存在しているが、昨今、女性の発言の機会が多くなり、生の声が論評されるようになった。その中で強く感ずるのは、たくましく、したたかになった女性の姿である。また年を追って、家庭での女性の発言が、重く大きくなっている。男性によって作られてきた女性像は、女性たちの手で解体されつつある。

私もいつの間にか80歳を超え、年を重ねてみて初めて気付く実感としての心身の変化に、これまでの人生を反省し、「今」を大切に、いかに良く生きるか、これからの Well-Being な老後に思いをいたす毎日である。

最後に若い時熱中したヘルマン・ヘッセの言葉をご紹介します。

* 年をとるということは、若いということと同じに、神聖にして美しい使命である。



会員番号7 大串 延子 (おおくし のぶこ)

- | | |
|------------|-----------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ (株)八王子エルシイ 役員 |
| ② 1935年 | ⑥ 長幼の序 |
| ③ 東京都 | ⑦ 旅行、観劇 |
| ④ 八王子市中野山王 | |

八王子プロバスクラブ創立20周年を祝して

月並みですが光陰矢の如し。長いようで短い20年。私の人生の4分の1を多くのメンバーと過ごすことができましたが、チャーターメンバーが8名ということは少し淋しい気がいたします。発足当時の懐かしい方々、大切な方々を亡くし、また、志をこにして離れてしまわれた方々等、古い名簿をひらきますと、共に動き、会食をし、移動例会へとたくさんの記憶がよみがえります。

毎年の生涯学習サロンも19回となり、地域の皆様をお迎えして楽しい知識を学び、宇宙の学校では、可愛いエネルギーにあふれる子供さん達と共に、孫2名も参加させていただき、宇宙飛行士への夢をひろげることができました。

新しいメンバーとなられた若い方々に、今後25周年、30周年を目指して頑張っていただき、プロバスクラブが今後ますます発展いたしますよう心より念じています。



会員番号 8 **大高 秀夫** (おおたか ひでお)

- | | |
|-----------|-------------------------|
| ① 1996年4月 | ⑤ 東京トヨタ自動車(株)八王子営業所長 |
| ② 1933年 | ⑥ 駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人 |
| ③ 東京都 | ⑦ 音楽鑑賞、コーラス |
| ④ 八王子市川町 | ⑧ 186 雑感 |
| | 210 一期一会 |
| | 227 湯行のすすめ |
| | 233 鈴木先生へ |

報恩感謝の心

人間は何も持たずにこの世に生れてきました。そして大自然の恵みを十分に頂き、親の愛に包まれて育てられ、更に社会の沢山の方々に支えられて成長して来た訳ですから、「天地の恩」「親の恩」「社会の恩」この三恩に報恩感謝して、なにごとにおいても「させて頂く」という素直な感謝の心、「勿体ない」そして「お陰様で」という下座(げざ)の心を持って、八十路の余生を大切に過ごさせていただきたいと願っています。



会員番号 9 **大野 幸二** (おおの こうじ)

- | | |
|------------|--------------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 教育出版(株) |
| ② 1934年 | ⑥ 継続は力なり |
| ③ 埼玉県 | ⑦ ジョキング、スイミング、ダンス、園芸 |
| ④ 八王子市元横山町 | ⑧ 200 プロバスだより創刊200号おめでとう |

生活を楽しもう

芽吹きの季節になるとなぜか心が弾む。名前の知らない木でも草でも、待っていたとばかりいっせいに芽を吹く。じっと見つめているだけで、気持ちがなごみ元気をもらう。

自分はまだ大丈夫と思っていたが、風邪をこじらせて肺炎になり、1週間入院したおかげで、体至る所の衰えを感じた。

ジョギング、スイミングを楽しみながら、これからは健康第一、どんなことでも無理をせず、マイペースで生活を楽しみたいと思う。



会員番号 10 **大野 聖二** (おおの しょうじ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 八王子追分町郵便局長 |
| ② 1927年 | ⑥ 我隣人皆我師 |
| ③ 東京都 | ⑦ 囲碁、奇術、歴史研究 |
| ④ 八王子市追分町 | ⑧ 200 プロバス創立から生涯学習サロンまで |

いつまでも学習意欲を持て

半年ほど前、歴史学の分野で、「記憶よりも考察を」の方針転換に大きく賛同した。

昭和18年5月第二次世界大戦のおり、急に学徒動員がかかった。20歳を超えた学生に対する徴兵猶予が中止になり、代々木で出陣式が行われた。同時に、旧制中学生に対しても進学は1割以内、文科系は禁止ということになった。

当時5年生だった私達は、12月に卒業繰り上げとなり、しばらく航空兵で働いていたが、昭和19年3月の日曜日、本が読みたくなり、ようらん社という本屋に立ち寄った。店長らしい人が近づいてきて、「あなたは学生かね。もう日本が負けることは確実だ。負けた後、立て直すことが大事だから、戦死してはいけないよ。今はろくな本はないから、伝記でも読んで勉強しなさい」と諭された。この一言で、当面は勉強しておこうと思い直して、補欠募集をしていた専門学校の数学科に何とか入学できた。戦後、英語の教師が時々脱線して、プラグマティズムの話をしてくれたが、アメリカ的な哲学なので、キルケゴール派の実存主義にも興味を持ち、東洋学の陰陽道なども学んだ。

今年の4月例会で、土井会長の「美しい老いを迎えるために」の卓話をお聴きして、我が意を得たりと賛同し、同時にクラブ創世時の20年前の私の思いを回想した。

まず、私はこの歳でも意欲を持って研究することが最高の健康法であると自画自賛している。



会員番号 12 **岡田 尚** (おかだ ひさし)

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 小西六写真工業退職後自営 |
| ② 1934年 | ⑥ 老後は楽しく生きるもの |
| ③ 高知県 | ⑦ 麻雀、カラオケ、映画 |
| ④ 八王子市元八王子町 | ⑧ 200 年寄りのたわごと
223 老いては子に従え |

余暇ばっかりの生活に

最近になって随分しぶとく仕事を続けてきたなと思う様になった。男の寿命80歳だとか。丁度今がその年だと思ったとたん余分の寿命は楽しむべきだ、仕事をやめて自分勝手な人生に切り替えよう、その為には廃業しなければ、よし3月一杯で決行しよう、ということになった次第である。

本当のところは今の時代の進化についていけないことや仕事の効率が悪くなったこと、物忘れがひどく身体もしんどくなってきたこと、中でも最大の原因は家内に先立たれその必要性が無くなったことだと思う。心配なのは今後何をやって1日を過ごしていくかだ。今でも連休でさえ時間を持て余しているくせに、なんとかかばけないように楽しく過ごす過ごす方法を見つけないかと思っている。「ソノウチナントカナルダロウ」今や、植木ひとしの心境である。皆さん、よろしくご指導の程を。



会員番号 20 **小林 貞男** (こばやし さだお)

- | | |
|------------|----------------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 東京電力(株)八王子営業所副所長、THS技術部長 |
| ② 1930年 | ⑥ 継続 |
| ③ 東京都 | ⑦ ゴルフ、散歩 |
| ④ 八王子市上野町 | ⑧ 199 私の散歩道 |
| | 201 プロバスだより200号発刊によせて |

私の健康法

長年勤務した会社を、平成7年8月末日に定年退職した。今後の自分の健康管理について、どう進めればよいのか思案し、取りあえずゴルフの練習場に通うこととし、3年ほど毎日(月～金)通い続けた。ある日コースに出た時、途中で足が吊り痛くて歩けなくなり、しばらく休んで、何とか最後まで終らせることができたが、普段から車生活で歩くことが殆どなく、ただ車を使って練習場に行ってクラブを振るだけでは、体力の維持には不足であり、足腰の老化を強く感じ、散歩することにした(ジョギングは、高年齢と体力不足で無理と判断したため)。

散歩を長く続けるには、コースの設定(毎日同じルートでは長くは続かない)が大事で、コース内に祀られている神社仏閣等を散策したり、見学できる場所等をあらかじめ選定して、散歩(4コースに設定)の目標とした。しかし、ゴルフの練習と散歩の両方では無理があるので、ゴルフの練習は月水金の週3日とし、残りの火木土日の4日間を散歩(2～3時間)と決めて取り組むこととした。

それから早いもので15年にもなる(ゴルフの練習は、約2キロの道のりを徒歩で通うことに変更)。散歩の魅力として、季節の移ろいと景色の変化を日々感じ、楽しみながら、体力維持に努めている毎日である。



会員番号 23 **塩澤 迪夫** (しおざわ みちお)

- | | |
|------------|------------------------|
| ① 1997年2月 | ⑤ 立飛企業(株)監査役、関連会社代表取締役 |
| ② 1936年 | ⑥ 大願成就 |
| ③ 茨城県 | ⑦ 旅行、ゴルフ、コーラス、麻雀 |
| ④ 八王子市大和田町 | ⑧ 192 私たちの役割 |
| | 222 時代の流れと生活基本の大切さ |

自分の健康は自分で生もう

調査機関によると、国民の7割以上の人達が日常の生活の中で、自分の健康の不安や悩みを口にしてしていると聞きます。特に多いのが高齢者で自分は如何にしたら健康づくりが出来るのか悩みであると言います。

私たち、クラブのメンバーは、自分で仲間を作り、月々の例会を得て会話をしたり、同好会の中でも会員同志の活動が自ずから健康維持に大きな役割を果たしています。

近年、急速な高齢化が進み一人一人の健康増進の重要性が著しく増大していますが、すでに東京都では12年前に「健康増進プラン」が策定され、八王子市は「市民健康づくり推進協議会」を行政を含めた市内50以上の団体で設立し毎年市民健康フェスティバルが全市民対象に5月の第3日曜日に富士森競技場で開催されて、プロバスクラブが受付部門を担当し私自身同志の皆様に支えられ、27年度で連続12年目の実行委員長に選出され、こうした中で、各人が自分に合うニュースーツにふれあうチャンスを作り、己の健康づくりの良い機会と思います。

健康増進法では、人々は自らの健康状態を自覚して健康増進を行おうとしており、各自の意識を上げる努力が望まれます。私自身も日々多忙な身で有りますがレクリエーション団体に関係し、ボランティアの中で幼児、児童、高齢者、非健常者等の各施設等で、共に、体を動かし、笑い、語らい、知らず知らずに健康を生んでおります。



会員番号 24 渋谷 文雄 (しぶや ふみお)

- | | |
|------------|---|
| ① 1998年11月 | ⑤ (株)タチエス 代表取締役・終身社友 |
| ② 1929年 | ⑥ 人間本来無一文 |
| ③ 長野県 | ⑦ 読書(主に中国近現代史)、旅 |
| ④ 日野市多摩平 | ⑧ 198 句会へのお誘い、205 モンゴルを訪ねて
225 八月に思うこと、237 八月に憶う |

老いて怒りの日々

今年、86歳を迎える。男子の平均寿命80.21歳と聞く。生粋の老人であろう。

養生訓で名高い貝原益軒は、その冒頭で「人生五十に至らざれば血氣未だ定まらず知恵未だ開けず。古今に疎くして世変になれず。言誤り多く、後悔多し。人生の理も楽しみも未だ知らず。五十に至らず死するを夭という。是亦、不幸短命というべし。長生きは楽多く益多し」と書いているが、当時は人生50年と言われた時代。当時の50は今の70くらいに当たり、「古希」は死語になったようだ。益軒は続けて「老後は若き時より日月の早きこと、十倍なれば、一日を十日とし、十日を百日とし、一月を一年とし、喜び楽しみ、あだに日を暮らすべからず。常に時・日を惜しむべし。心しずかに、従容として余日を楽しみ、怒りなく、欲少なくして、残軀を養うべし、老後の一日を楽しまずして、空しく過ごすは惜しむべし。老後の一日、千金に当たるべし」と言うのである。今に置き換えると、70歳を過ぎたら従容として余日を楽しめと言うのだが、私は72歳で職を辞し、以来晴耕雨読、静かな日々恵まれたのも数年。最近治安維持法に変わる秘密保護法、集団的自衛権の容認等々、憲法改悪の動きが急であり、戦後異国の地に8年間の残留を余儀なくされた私は、再び戦場に人を送ることは絶対許せない。このところ私は怒りの日々を送っている。

……ついでに書き添える。益軒は更に「接して漏らさず」と。私には縁がないが、会員各位の健闘を祈る。



会員番号 26 下山 邦夫 (しもやま くにお)

- | | |
|------------|--------------------------|
| ① 1998年8月 | ⑤ オリンパス光学工業(株)取締役カメラ事業部長 |
| ② 1936年 | ⑥ 何故、どうして、素直な疑問を持ち続ける |
| ③ 岡山県 | ⑦ 囲碁、彫金、カメラ、ゴルフ |
| ④ 八王子市めじろ台 | ⑧ 193 宇宙＝不思議、未来、いのち |

子どもが輝く、大人が変わる

プロバスクラブに入って、17年になる。実に長いと思う。私も人並みに、リタイア後の人生を豊かに過ごそうと考えていた。趣味とか、何かを調べるとかに時間を使うなどだ。その肝心の時期での17年という長い期間は、その考え通りではなかった。プロバスクラブの魅力が私を捉えてしまったのだろうか。他のゴールデンエイジの過ごし方もあったろう。でも他の何かを選んでも、十分に満足のライフを過ごせたかどうかは疑わしい。小人は不善をなすばかりだったに違いない。プロバスを通して、人との新たな出会いや、わずかばかりの社会貢献は、趣味生活とは異なる次元での生活の新局面を与えてくれた。八王子「宇宙の学校」をやっているが、自分にとって明らかに望ましい局面が、そこにあった。子ども達の理科への目覚め、自然や生命の不思議への好奇心を引き出すのに役立っていると信じている。こどもの顔が輝くのを見るからだ。永遠の命に召される時、いい人生だったと言い残せるとしたら、プロバスクラブのお陰が大きいに違いない。



会員番号 32 立川 富美代 (たちかわ ふみよ)

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 婦人肌着製造会社経営 |
| ② 1931年 | ⑥ まず、やってみよう |
| ③ 兵庫県 | ⑦ 音楽、国内外旅行、読書 |
| ④ 八王子市櫛田町 | ⑧ 191 忘れ得ぬ食べ物 |
| | 200 千の風になった懐かしい友へ |
| | 215 日本の子供たちの未来 |

戦後 70 年に思う

昭和20年8月は女学校の2年生だった。疎開先高松で空襲に会い、艦載機の機銃掃射を受けたのは今も忘れない恐怖だった。その年の9月に母を亡くし、父は行方不明、兄と小さい弟と3人でかろうじて生き抜いた。

父の帰国と共に神戸に帰り、学校、就職、結婚出産、事業と楽しいことも苦しいこともあった。戦争の苦しみは年と共に薄れてゆくが、今世界中で起きているテロの情報を聞くたび戦争を思い出し、弱い人達はいかに悲しいかと思い、テロに向き合う上で、国際社会が人命と共に守るべき原則は何かと思う。

山中伸也教授のトークの中で、自分の研究が、人類に貢献し、保険の効く安いものになるまで生きたいと言われたが、その日が1日も早くと祈り、平和な時代に生きうる人類がうらやましいと思った。



会員番号 34 土井 俊玄 (どい しゅんげん)

- | | |
|-----------|--------------------------|
| ① 1996年8月 | ⑤ 相模原市立中学校 校長 |
| ② 1935年 | ⑥ 自覚々他・自利々他 |
| ③ 東京都 | ⑦ 椿栽培・観賞、カメラ、読書 |
| ④ 八王子市千人町 | ⑧ 181 直葬について考える |
| | 213、214、215 千人同心と興岳寺について |
| | 231 地球温暖化について |

勿体ない

広辞苑を繙いてみると「勿体ない」の意味は、①神仏・貴人などに対して、不都合である、不届きである。②畏れ多い。かたじけない、ありがたい。③むやみに費やす。無駄にするのは惜しい。の3つの意味があり、この中の③の意味の勿体ないという言葉は驚くことに、英語・フランス語・中国語・ロシア語などの世界の主要言語には存在しない概念であると言います。この勿体ないの概念の中には「消費削減＝リデュース」「再使用＝リユース」「資源再利用＝リサイクル」「修理＝リペア」の4つの「R」を表しているとして、平成17年(2005年)3月、国連「女性の地位委員会」の閣僚級会合でノーベル賞受賞者でケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ氏が演説の中で日本語の「勿体ない」を環境保全の合い言葉として紹介してから「勿体ない」が世界語になったのです。「過労死＝Karoshi」なども英語になっていますが、これは嬉しくありませんが、「勿体ない」が世界語になったことは喜ばしいことです。



会員番号 40 **濱野 幸雄** (はまの ゆきお)

- | | |
|------------|----------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 東洋紡績(株) 工場長 |
| ② 1935年 | ⑥ 人間処至有青山 |
| ③ 東京都 | ⑦ グランドゴルフ、野球観戦、機械いじり |
| ④ 八王子市檜原町 | ⑧ 200 会長職を振り返る |

長生きの秘訣

最近80歳を迎えた。近頃は、運動神経も悪くなり、或る社長の訓示「長生きの秘訣」を考え、生活を続けている。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. としのことは云うな | 7. いくつになっても希望を忘れるな。 |
| 2. 新鮮な空気を吸って、呼吸を活発に | 80歳になったら、これから30年を |
| 3. 怒るな | どう生きるか |
| 4. 淡泊なものを食べる | 長期計画を建て臨むと良い。 |
| 5. 頭を使え | 8. 金にこだわるな |
| 6. 面倒なことにぶっつかっても | 9. 過去にこだわるな |
| 思考を停止せず前に進め | 10. 気持ちの上で若さを忘れるな |

クラブ発足の頃、家の中で「紳士、淑女の小さな会」と呼んで、例会の日の身支度を手伝ってくれた家内が、「立派な紳士、淑女の会になりましたね。20周年おめでとうございます」と笑顔で言ってくれました。



会員番号 43 **古川 純香** (ふるかわ じゅんか)

- | | |
|------------|--------------------|
| ① 1995年10月 | ⑤ 煎茶道、文人華道、清泉幽名流家元 |
| ② 1935年 | ⑥ 根気、元気、勇氣 |
| ③ 宮城県 | ⑦ 読書、観劇、音楽、ダンス |
| ④ 八王子市めじろ台 | ⑧ 185 橋を渡って |
| | 201 思い出に包まれて |
| | 216 遠い風景 |

20周年を振り返って

15周年の折も同じテーマでした。あれから5年、そう過ぎていない。しかし、大変年を重ねた気がします。5年前の心境と同じくプロバスの会合は、私の生活に1つの彩りを与えてくれる。つまりは座右銘の1つ元気を頂ける会です。毎月の例会、昼食をはさんでの座談、報告、進行等々。その他の行事の学習サロン、バス旅行… 各々の所属する部の行事、前年と同じく続いて居ります。日々の繰り返しの生活と同じく私どもは集まり、各々の役割（私などは微々たる活動のみですが）を務めております。

それでも、別れと出会いは5年前とは変化しております。この会の動きは、私共の現実生活の軌道と同じく、キチンと廻っております。外側のこれ等の活動を個人がどう感じどう意識するか、これが問題です。私ごとになりますが、今日は楽しもう、あの方に聞いてみよう、卓話を真面目に聴こう、つまりは現実的なこの会をどんな思いで、どんな願いで… など学生のような気持ちを抱くと、とたんに変化するものです。

人生意気に感ずの言葉がおもいだされ、一方ではあまり力まず静かな心で出席しなさいよ!! との声も聞こえるようです。



会員番号 45 **宮崎 浩平**

(みやざき こうへい)

- | | |
|------------|------------------------|
| ① 1997年10月 | ⑤ 日立キャピタル(株)東京営業本部営業部長 |
| ② 1936年 | ⑥ 生涯修身 |
| ③ 八王子市 | ⑦ 読書(歴史研究)、ゴルフ、囲碁 |
| ④ 八王子市大横町 | ⑧ 188 写楽の謎は解けたか |
| | 200 ボストン美術館・日本美術の至宝 |
| | 208 メトロポリタン美術館展の観賞 |
| | 220 八王子美術館めぐり |

八日市宿・新野家文書集成

私の所属する歴史の会は、昨年12月1日「八日市宿新野家文書集成」を刊行致しました。江戸時代、八王子市において八日市宿に本陣であった新野家に伝来する近世文書を5年間かけて解説、解説を付した1冊です。本書に収録した「新野家文書」は、絵図面を加えて、235点です。延宝2年の文書を初見として、近代の明治時代まで通した八王子宿駅に関するものです。

その内容は、支配、本陣、宿駅、助郷、貢租、拝借米、六斎市、寺社、家、御鷹部屋等、幅広い項目の記録資料です。

八王子の町は、江戸時代以降、数多くの火災に遭い、本陣の新野家が数回の火災により、家屋や家財が焼失していることが記録されています。近代においても、明治30年の大火、昭和20年の戦災等により、現在残される資料は少なく、貴重なものです。

これらの資料は、私たちに八王子の歴史を教えてくれています。



会員番号 48 **吉田 信夫**

(よしだ のぶお)

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 1997年12月 | ⑤ (株)東芝医用機器事業部 |
| ② 1937年 | ⑥ 青春とは心の様相を言う |
| ③ 山形県 | ⑦ 囲碁、ジョギング、米澤藩の歴史 |
| ④ 八王子市めじろ台 | ⑧ 221 天声人語書き写し |

サミュエルウルマンの詩「青春」

「青春とは、人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ」で始まるこの詩は、自分の心の中で大きな位置を占めている。この詩との出会いは、自分が60歳になった頃、高校時代の恩師が私の為にこの詩を書いて下さったのが最初である。また自分の母校の旧米沢工専の先生をされていた岡田義夫と言う方がこの詩の翻訳をされたという事から一層の思いが今に募っている。

喜寿を過ぎた今、年相応に体力を維持しているが、気力特に物事に挑戦する意欲だけは失わないように努めている。それを支えてくれているのがこの詩である。

プロバスクラブに入会させてもらい、会の活動を通じて、いろんな方との交流を通じ自分が成長出来る事は非常に有難いことで、会の活動でも積極的に取り組む姿勢の源に、この詩を位置付けている。

現在、この書は額装し部屋に飾り、毎日目に触れるようにし、自らを鼓舞させている。



会員番号 57 廣瀬 智子 (ひろせ ともこ)

- | | |
|-----------|----------------|
| ① 2000年3月 | ⑤ 公立小学校校長・挿草教授 |
| ② 1933年 | ⑥ 第2の努力 |
| ③ 八王子市 | ⑦ 読書 |
| ④ 八王子市子安町 | ⑧ 231 戦後70年 |

都立南多摩中等教育学校のこと

2015年3月をもって都立南多摩高校は閉校し、この4月から都立南多摩中等教育学校へと継承されます。

1892年横川楳子先生が私立八王子女学校を創設し、女子には教育はいらないという時代背景の中で全力をつくしたのです。その後八王子の有志の方々の女子教育への熱意と、東京府も多摩地方にも女学校をと、だんだんに高まっていきました。横川先生は率先して、すべてを寄付し、府立第四高女が発足しました。1908年のことでした。

1945年8月、八王子空襲で校舎が全焼し、防火壁と横川先生の胸像だけが焼け跡に残っていました。翌年、私は都立第四高女に入学しました。平屋建ての校舎が1年生のために建てられ、衝立で6教室に仕切られました。上級生たちは、まだ他の学校やお寺などでした。

学制改革で、第四女子新制高校併設中学校、男女共学の第四新制高校、南多摩高校と変遷し、6年制の中高一貫校へと移行しました。

今後のさらなる発展を願っています。



会員番号 65 米林 伸恭 (よねばやし のぶやす)

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| ① 2001年4月 | ⑤ (株)函館西武 取締役管理部長 |
| ② 1939年 | |
| ③ 東京都 | ⑦ 高校野球観戦、ゴルフ |
| ④ 八王子市緑町 | ⑧ 184 百貨店の衰退
213 甲子園の思い出 |

甲子園の土

高校野球で、敗れたチームが甲子園の土を持ち帰る姿はよく見る風景だ。この土を最初に持ち帰ったのは、昭和12年夏、決勝で敗れた熊本工業の川上哲治投手であるとか、昭和24年夏、準々決勝で敗退した小倉高校の福島一雄投手であるとかいわれているが、とりわけ有名なのは、昭和33年夏、沖縄県勢初の出場を果たした首里高校が善戦空しく1回戦で敗れ、甲子園の土を持ち帰ったところ、沖縄は当時米国の統治下にあったため、外国の土とみなされて那覇港で没収され、海に廃棄されたという話である。その後日談だが、このニュースを知った日航の乗務員が、土が駄目なら、石なら良いだろうと「甲子園の石」を首里ナインに贈ったという。

さて、甲子園の土は何処の土であろうか。実は、各地の土をブレンドして使っていることを知る人は少ないであろう。これまでは淡路島の土、鹿児島県鹿屋の黒土、岡山県日本原の黒土等が使われてきたが、現在は、鹿屋の黒土と中国福建省の白砂を混ぜ合わせているそうである。さらに、春と夏では気象条件が異なることから割合を変え、雨の多い春は砂6：土4、夏は砂4：土6としているとのこと。こんなところにも、大会を支えている裏方の皆さんのご苦労の一端がうかがえよう。

それにしても、政治の世界では冷えた状況ともいえる日中関係だが、スポーツの世界では中国の土が甲子園で使われているとは驚きの一語である。



会員番号 66 **武田 洋一郎** (たけだ よういちろう)

- | | |
|-----------|---------------------------|
| ① 2001年4月 | ⑤ システムエンジニア、行政書士 |
| ② 1941年 | ⑥ 誠心誠意・まず1歩を踏み出せ |
| ③ 満州国 奉天市 | ⑦ 写真、合唱、楽器演奏 |
| ④ 八王子市片倉町 | ⑧ 194 夏季スクーリング |
| | 207 パソコンを捨て、そして町に出よう |
| | 226 東海道新幹線開業50周年を記念して回顧する |

奉仕活動

平成13年に入会、はや14年目になりました。創立20周年、任意団体として弛まず継続しているクラブ活動は素晴らしいと思います。この間の先人のご努力に敬服です。

現在、男声合唱団や地元吹奏楽団での演奏など、若い人たちとの交流で精神状態はまさに良好そのもの。自分の趣味が地域の方々への奉仕活動にも繋がっており、社会貢献の一環にもなっております。先日も近隣町会の会合の宴席で演奏しましたが、下は高校生から上は70歳オーバーの団員がいるとの紹介があり、拍手多数。いい意味での楽団の広告塔になっております。息の続く限り、楽しみたいですね。

最近、八王子市の「高齢者ボランティア」、「認知症サポーター」の登録を行い、これから迎える「2020年問題（高齢者急増問題）」に対し、地域での見守りはどうあるべきか勉強をしております。とはいえ、私は既にサポートを受ける立場の歳。ですが、元気なうちには何かお役に立てればと思い、地域包括支援センターなどで奉仕活動しております。



会員番号 69 **阿部 幸子** (あべ さちこ)

- | | |
|-----------|-------------------|
| ① 2001年9月 | ⑤ 日本銀行、東大農学部、東京高専 |
| ② 1930年 | ⑥ 誠実、明朗 |
| ③ 東京都 | ⑦ 生け花(桂古流師範) |
| ④ 八王子寺田町 | |

伊香保温泉の旅

以前、3人の弟と私の4姉弟で伊香保を訪れました。渋川から乗ったバスの窓に広がる雄大な景色に思わず顔を見合わせ、お互いに無言で美しい景色に見入ってしまいました。まさに絶景そのものです。

竹久夢二伊香保記念館(とても落ち着いた、雰囲気の良い記念館)を楽しみ、温泉街のメインストリート石段街に向かいました。365段あるという石段の両側には、ホテル、旅館、土産物店が軒を連ねていて、多くの人がそぞろ歩きを楽しんでいます。365段を上り詰めたところには、シンボルとして信仰されている伊香保神社があり、温泉、医療の神様として、赤城の赤城神社とともに親しまれ、また、大晦日には、甘酒が振る舞われて、多くの参拝者が訪れるとのことでした。

翌日は、大宮で、姉弟で乾杯して旅も終わりです。



会員番号 70 **佐々木 研吾** (ささき けんご)

- | | |
|-----------|-------------------|
| ① 2001年9月 | ⑤ 日本銀行盛岡事務所長 |
| ② 1932年 | ⑥ 公平無私 |
| ③ 秋田県 | ⑦ 地理研究、クラシック音楽鑑賞 |
| ④ 八王子市長沼町 | ⑧ 217 八王子に住んで30余年 |

地図と楽譜と

地図と楽譜は、私にとって生涯の伴侶である。地図の1部記号を除き、いずれもほぼ万国共通であり、その含意はまことに深い。

地図に親しむきっかけは、小学校就学前に、旧制中学校の歴史・地理の教師であった父から与えられた、地図帳の美しさに魅せられたことにあった。鮮やかな緑の平野、深さ・高さに応じて濃淡の青や茶色に彩色された海や山、などの美しさが、幼い私を虜にしたのであった。このことが、国土地理院の地形図を携えて山野や街を歩き回る、現在の「地理研究」の趣味につながっている。

また、中学・高校時代に合唱に熱中したことが、楽譜に親しむきっかけとなった。楽典、読譜、発声等の基礎を叩きこまれ、猛練習に明け暮れるうちに、音楽理論の合理的体系に魅せられ、楽譜さえ読めれば大抵の曲は歌えることに大きな喜びを感じるようになった。読譜の喜びは、その後の合唱活動のほか、広範な音楽鑑賞にも役立っている。



会員番号 73 **山崎 修司** (やまざき しゅうじ)

- | | |
|-----------|-------------------------------------|
| ① 2001年9月 | ⑤ セイサ(株) 常務取締役営業本部長、東洋精密(株)代表取締役社長 |
| ② 1934年 | ⑥ 精神一到何事か成らざらん |
| ③ 北海道 | ⑦ 囲碁、ゴルフ、ウクレレ、旅行 |
| ④ 八王子市台町 | ⑧ 183 座右の銘
199 絆
229 少年時代の思い出 |

終の棲家

作家谷崎は、住む条件として、「気候温暖で、食べ物が美味しく、人柄が良い処」として、静岡を推していた。現在では、3.11の東日本大震災の経験から地震と津波に、火山の噴火も加えなければならない。富士山系の噴火が最近話題になっているので、静岡もその条件から外れる。食べ物は、流通機構の発達で、若干の新鮮さを除けば、離島と寒村以外は、日本中許容範囲に入るとすると、問題は人柄の良し悪しである。

八王子は、気候は名古屋の暑さと、京都の底冷えの両方を兼ね備えた処である。しかし、空調の発達で苦にならないとすると、住む場所は人柄の良い処に限定される。

八王子での住居は、自ら交渉して傘下にした会社に出向を命じられ、1年ほど単身で小金井に住んだ後、家内が上京して、結婚後9回目の引っ越した先が現在のマンションである。プロバスに入り多くのよき友を得て、家内亡き後も、去り難いところとなっている。



会員番号 74 **阿部 治子** (あべ はるこ)

- | | |
|-----------|---|
| ① 2002年1月 | ⑤ 茶華道教授 |
| ② 1937年 | ⑥ 和敬清寂、奉仕の精神 |
| ③ 福島県 | ⑦ 旅行 |
| ④ 八王子市上野町 | ⑧ 194 隠元禅師騎獅像開眼法要献茶会に参加して
231 煎茶道と高遊外壳茶翁 |

日本の四季

八王子プロバスクラブに入会いたしました15年、茶華道、煎茶道を嗜みまして喜寿も過ぎてしまいました。茶道を通じ「和敬清寂」、そして奉仕の精神を学び、日本の「四季」「花鳥風月」の季節を身につけて生きてきたこと、また、日本の国に生まれたことをうれしく思います。

- ・「道元禅師」春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて 冷やしかりけり
 - ・「良寛の辞世の句」形見とて 何か残さん 春は花 山ほととぎす 秋はもみじ葉
 - ・「明恵上人」雲を出でて 我にともなふ 冬の月 風や身にしむ 雪や冷たき
- など和歌に詠まれています。茶の湯にも歳時があります。「初釜」「節分」「観桜」「初風炉」「七夕祭」「菊月」「明月」「口切」「炉開」「歳暮」の茶会と季節の道具をそろえて、茶を楽しみます。私は、12月の茶席には「無事」の掛け軸をかけ、1年すべてに感謝しています。
- ・「利休居士」は、見渡せば 花も紅葉もなかりけり 浦の苫屋の秋の夕暮れ
- (藤原定家選)

この和歌が「わび」世界だと伝えられています。

日本の春夏秋冬は人間の感性を磨かせ、心も研ぎ澄まさせ、豊かにもしてくれました。私もあと何年かで80歳。「うつろいゆく命」「はかなき」「無常」をも感じ入り、老いて生きる大切さを学ばねばなりません。



会員番号 75 **永井 昌平** (ながい しょうへい)

- | | |
|-----------|------------------------|
| ① 2002年1月 | ⑤ オリンパス(株) 常務取締役 |
| ② 1938年 | ⑥ よく遊ぼう |
| ③ 東京都 | ⑦ ゴルフ、光学技術の日本史 |
| ④ 八王子市石川町 | ⑧ 214 虹
217 ダンスの思い出 |

理科教育

八王子宇宙の学校も5年目を迎えた。その本当の成果が評価されるのは先の話になると思う。以前、物理教育のディスカッションに参加したことがある。中学、高校の先生達は、理科に興味を持たせるために多大な努力を払っているのを知った。多くの生徒は理科に興味を持つが、最終的には文系に進む子が多かったそうである。そこには親の意見が大きく反映されていたという事であった。

ノーベル賞受賞者の中には、親から教育を受けた方が多くいる。青色発光ダイオードの中村修二氏は、数学が苦手な、父親から数学を習ったという。また、江崎玲於奈氏は小学校時代を通して、母親が先生役を務めていたそうである。

宇宙の学校は親子で参加するのが基本である。宇宙の学校を修了した後、家庭内での教育がどうなっているか興味深い。将来、宇宙の学校修了者からノーベル賞受賞者が出ることを期待したい。



会員番号 78 橋本 鋼二 (はしもと こうじ)

- | | |
|-----------|---------------------------|
| ① 2002年1月 | ⑤ 農林水産省北陸試験場長 |
| ② 1934年 | ⑥ 学ぼうとする心を持ち続けたい |
| ③ 八王子市 | ⑦ 囲碁、ランの栽培 |
| ④ 八王子市北野台 | ⑧ 181 北方4島と尖閣諸島 |
| | 189 太陽熱を利用した温水器の10余年の記録から |
| | 216 ベトナムで日本稲栽培試験にかかわったところ |
| | 233 タイ在住の日本人に自分史を書くことを勧める |

アンデス高原を旅して思ったこと

アンデス高原はインカあるいはそれ以前の文明が存したところである。大きな石を切り出して運び、隙間無く組み上げて作った壮大な石造建築の多くが空気の薄い標高3千メートル以上の高地にある。作り上げた技術は謎が多い。

インカ帝国とその文明は、スペインからの少数の侵略者たちによって、もろくも滅ぼされてしまった。日本の戦国時代とも重なる16世紀初頭のことである。このインカ文明や帝国の成立と崩壊、あるいは独自に発達させたいろいろな技術などについて、彼等自身の手で記録し、残したものはない。文字のない文明であったことに原因がある。ひるがえって、日本の戦国時代を考えれば、支配者層の作ったものせよ、いろいろな文字史料が残っている。

文字を持たぬ高度な文明の末路を見て、今私たちが手にしている文字を組み合わせた文章という情報伝達技術と記録の重みを実感した。自分たちの物として使い、伝えていきたい。



会員番号 79 浅川 文夫 (あさかわ ふみお)

- | | |
|-----------|----------------|
| ① 2002年8月 | ⑤ 分光計器(株)代表取締役 |
| ② 1933年 | ⑥ いたるところ青山あり |
| ③ 長野県 | ⑦ 囲碁 |
| ④ 八王子市諏訪町 | ⑧ 222 二つの故郷 |

70年

70年前の8月15日、私は12歳の小学生でした。ラジオを聞いて大人の、負けたらしいという声が聞こえ、何故かほっとしたような雰囲気でした。

それまでお国のために死ぬんだということに、あまり違和感が無かった自分をみて、教育されることの、恐ろしさをおもいしらされました。

その後、戦争をしないという憲法のもと、これから平和な世の中になるんだ、と誰もが信じていました。

あれから70年、世界の平和はどこへいったのだろう。考えてみれば、人類は発生以来、生存競争に明け暮れ、平和なんてひとときも無かったのでしょう。

今、憲法を変えようとしています。変えようと思う人たちを、何とかふやそうと、世論づくりにやっきになっています。

いつの間にかそういう教育を受け、世論の波に飲み込まれて、国益のためなら何でもする、世の中になるんでしょうか。なんだか、70年前とあまり変りのない、いつかきた道を歩いているような気がします。



会員番号 80 矢島 一雄 (やじま かずお)

- | | |
|------------|------------------|
| ① 2002年12月 | ⑤ 八王子市 収入役 |
| ② 1932年 | ⑥ 生涯青春 |
| ③ 神奈川県 | ⑦ 写真撮影、ゴルフ、囲碁 |
| ④ 八王子市暁町 | ⑧ 188 失敗は成功の基 |
| | 227 白馬五竜高山植物撮影紀行 |

「花も団子も」

今年も桜の開花が話題になる季節を迎え、甘党の私にとっては、向島・長命寺山本やの桜餅の味が懐かしく思い出される。

スカイツリーが完成し、隅田堤の桜と一緒にカメラに収めたいと訪れた時のこと、花見の季節とあってか、店の前には桜餅を買い求める客が長い列を作っていた。長い時間の末に口にした桜餅は、今までに食した桜餅とは形や味が全く異なるのに驚かされた。

山本やの桜餅の特徴は、まず、その形にある、餅が大きな2枚のオオシマザクラの葉に包まれて外見からは中に何が包まれているのか全く分からない。そのために真っ白な餅の地肌のしっとり感が保たれていて、口にした瞬間に塩漬けされた桜の香りが、甘味を抑えた餡との絶妙なバランスの味を演出してくれている。

享保2年(1717年)創業のこの店は、長命寺の門番をしていた山本真六が落ち葉の掃除に手を焼いた中で考案されたと云われている。門前のヤマザクラの葉を塩漬けにして餅を包んで売り出したところ、これが当時の江戸の人々の間で大評判となり、季節を代表する人気商品になったと伝えられている。

満開の桜を愛でながら、今なお江戸の味を伝える桜餅と再会する日が待ちどおしい。「墨堤は花に団子に江戸しぐさ」



会員番号 81 下田 泰造 (しもだ やすぞう)

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ① 2003年1月 | ⑤ 横河エレクトロニクス(株)生産技術部長 |
| ② 1942年 | ⑥ 孤掌鳴らし難し |
| ③ 東京都 | ⑦ 古典落語観賞、庭いじり、酒味 |
| ④ 八王子市廿里町 | |

美酒元来吾所好 (びしゅがんらいわがこのむところ)

文明が発展した国には、その民族の酒があるという。日本には日本酒と言う素晴らしい民族の酒がある。その酒を私が飲みはじめたのは会社に勤め始めた15歳のころからで、先輩に連れて行かれて、樽のテーブルに樽の椅子の店で薬缶で沸かした熱燗を塩辛などをつまみに2～3杯飲んでいい気持になっていた。その後1人でも行く様になってから早58年になるがいまだに肝臓は大丈夫。

好きな酒は、日本酒の熱燗、続いて焼酎の冷たいウーロン割、ウイスキーのロックと続く。なぜかビールは腹が膨らむのであまり好まない。いきのいい刺身で熱燗をグビグビ 最高だね。

酒は、その土地の地物をつまみにその地方の地酒を飲むのが1番うまい。旅の楽しみでもある。今晚もまた熱燗で1杯。日本人に生まれてよかった。



会員番号 82 **小林 時雄** (こばやし ときお)

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ① 2003年4月 | ⑤ (株)カーテンじゅうたん王国代表取締役 |
| ② 1936年 | ⑥ 温故知新 |
| ③ 埼玉県 | ⑦ ゴルフ、読書 |
| ④ 八王子市石川町 | |

大河の一滴

人は皆大河の一滴である。「人は生きている」それだけで値打ちがあると思う。題字も書き出しも、作家五木寛之の巻頭文である。私はこういう書き出しが好きだ。

自分自身の人生を考えると、川の流れにイエスとは云いたくない。ノーともいえない。身を任せつつ時には逆らいながら、人生の河を渡ってきた。あの場面この場面と反省してみても、やり直しはきかない。私自身が歩んできた道のりの中での成功体験や過去の栄光は、所詮年寄りの冷や水でしかないようだ。

私の人生は、世の流れからすれば、二流にも入れない三流が生き残るためにただがむしやりに戦ってきたようなものだ。故に、我が事業の核であった「小が大を制す」の理論は、世間からは受け入れがたい異端児であったればこそその発想であり、逆説や発想の転換こそが「業界の鼻つまみ者」の最大の武器であった。

世の中は、すでにバブル崩壊によるショックも風化し、日本社会は、人々の価値観も変わり、次世代の行き着く目的地が何処なのか見当もつかない。今こそ最大級の価値観をもって、次世代のために将来の扉を開くときではないだろうか。

人の考えない道を探れ。



会員番号 83 **八木 啓充** (やぎ ひろみつ)

- | | |
|------------|----------------------|
| ① 2003年11月 | ⑤ 日本コンベンションセンター(株)専務 |
| ② 1936年 | ⑥ 拙速を尊ぶ |
| ③ 東京都 | ⑦ 男声合唱、山野草観察、山歩き |
| ④ 八王子市山田町 | ⑧ 215 人生って不思議なものです |

周年にちなんで

15周年も同名の文を書いた。先ず記憶にある周年は15周年(2000年)ドイツ・チェコへの第4回目の海外演奏旅行である。ハンブルグのムジークハーレでの大舞台、ハンブルグ警察合唱団とのジョイントコンサートが思い出される(その後2006年横浜で共演)。20周年はいわずと知れた東京八王子プロバスクラブ20周年である。45周年は1970年の大阪万博への出向である。その後の私の人生に大きな軌跡を残した出来事であった。ある意味で異能の人々との出会い・交流。当時の財界人との触れ合い。世界のトップエンターテイナーとの交渉などエクスサイティングな出来事であった。

60周年。今年の白眉は「男声合唱開眼60周年」である。大学1年入学とともに始めた男声合唱。今年4月に横浜グリークラブ(国大 0B に横浜市内の歌キチが集まった合唱団)に休部届を出し、初心に帰って横浜国大 0B グリークラブに再入部し10月の定演に出演すべく猛練習を始めた。返す刀で7月20日(月・祝日)オリンパスホールでの東京交響楽団(飯森範親・指揮) モーツァルト「レクイエム」に応募し、最後の1名で入団した。

周年が昔を振り返るのではなく新たな人生の出発として行きたい。



会員番号 84 **荒 正勝** （あら まさかつ）

- | | |
|------------|--------------------------------|
| ① 2004年10月 | ⑤ カシオ計算機(株)取締役 |
| ② 1936年 | ⑥ 好奇心 |
| ③ 東京都 | ⑦ 日本古代史、日本画制作 |
| ④ 八王子市散田町 | ⑧ 187 ユーフラテスの辺で
202 西蔵鉄道に乗る |

メソポタミヤへの夢

4年前の3月11日、東日本大震災が発生した頃、私はそのことも知らずに、シリアのアレッポからユーフラテス河に向かって、荒地の道をバスで走っていた。

窓から目に入る城塞や神殿は、幾多の戦争や地震で、壁や柱が崩壊し、長期の砂嵐などで瓦礫の山と化していた。そんな遺跡の丘から望むと、力強く、悠々と流れる大河の近くには麦畑が広がっていて、心が和む。ユーフラテス河だ。この河と並行して東側を流れるチグリス河に挟まれた肥沃な大地が世界最古の文明といわれる古代メソポタミア文明を育んだ地域なのだ。

灌漑農耕をはじめ、麦を大量生産し、都市国家を発展させ、交易を行い、暦や楔形文字を発明して、生きた証しを膨大な数の粘土板に記録した。多くの都市遺跡から出土した膨大な数の石板から当時の模様をうかがい知ることができる。「目には目を」で有名なハムラビ法典もこの時代に作られている。エデンの園、ノア方舟やバベルの塔などの逸話も、世界最古の「ギルガメシュ叙事詩」に書かれているほか、シュメール人によって建国されたメソポタミアにおける話だ。世界の四大文明の1つであるメソポタミアについて知れば知るほど、奥行きも深くなり、夢は果てしなく続く。今は、当地域における紛争の終焉を願うばかりである。



会員番号 88 **池田 ときえ** （いけだ ときえ）

- | | |
|-----------|--|
| ① 2005年3月 | ⑤ 絵手紙花の会講師 |
| ② 1943年 | ⑥ あしたがあるさ |
| ③ 東京都 | ⑦ 絵、字を描くこと |
| ④ 八王子市北野台 | ⑧ 186 1368×2(琴平参り)
226～227 縄文の土器みてある記 |

お誕生日おめでとう

毎月、お誕生日を迎える皆さんにお祝いのカードを描いています。絵手紙流で、季節の絵に短い言葉を添えて。

月に2枚から10枚というところ。おひとりおひとりのお顔を思い浮かべ、おたよりを書くつもりで作っています。おかげで会員の皆さんのお名前、お人柄がよくわかるようになりました。もちろんお年も存じていますが、どなたも実年齢よりはるかにお若く、お元気です。プロバスの活動で心身ともに活性化するのでしょう。

ささやかで拙いものではありませんが、皆さんが喜んでくださるのがなによりの励みです。よき機会をいただいたことに心から感謝します。描き始めて6年になりました。お手元に6枚のカードが貯まったということです。最近の皆さんの合言葉は、「10枚もらうぞ！」

そうです、お互いに元気で10枚を目指しましょう。



会員番号 89 **東山 榮** （ひがしやま さかえ）

- | | |
|-----------|---|
| ① 2005年4月 | ⑤ 建設会社役員、マンション管理士、
一級土木建築施工管理技士 |
| ② 1931年 | ⑥ 成せば成る |
| ③ 山梨県 | ⑦ 囲碁、ゴルフ、俳句 |
| ④ 八王子市泉町 | ⑧ 189 例会委員長の任を終えて
225 駐留米軍基地のバイトで感じたこと
203 優勝 |

傘寿の感慨

傘寿に達し、嬉しいとか、ヤッタとかという実感はない。例えば勝負事などで、「優勝するぞ」という目的をもって優勝したときの達成感と異なって、「80歳になるぞ」という目的をもって生きてきた訳ではないからだろう。毎日の健康には十分注意しながら、まあよくここまで来た、よかったという達成感、安堵感はある。考えてみれば、誰もが自分の寿命を決めることはできない。特に後期高齢者ともなれば、一日一日がどうなるか、心配と同時に一種の興味も湧いてくる。いずれにしても、80年間のこれまでは、長いという感じと、アッという間という感じが入り混じって、その間のいろいろな物事が交錯して、感無量という一語に尽きる。一方で、先祖、親類、縁者、周囲の人々、特に奥さんの絶大な協力のお蔭で、今日があることに満腔の感謝をしなければならない。

現在の日本も借金大国で大変だけれど、中東、アフリカ、欧米も含め、世界中が大波に揉まれている。これからの時代をどう生きていくか。傘寿に達した私たちは、先の戦争の悲惨さを身をもって経験しているのだから、戦後70年憲法第9条を持つ世界に類のない平和国家として、国際的に認められていることは今後絶対に守っていかなければならない。また、その思いを世に訴え続けていかなければならないと強く心に念じている。



会員番号 90 **澤渡 進** （さわたり すすむ）

- | | |
|-----------|---------------------|
| ① 2005年9月 | ⑤ 味の素(株) 部長 |
| ② 1939年 | ⑥ 心を開いて路傍に咲く草や花を楽しむ |
| ③ 八王子市 | ⑦ 日本古代史研究、旅行 |
| ④ 八王子市八幡町 | ⑧ 195 伊太利好き |

人生3カ年計画

後期高齢、結婚50年、プロバス在籍10年。一区切りの時期である。記憶力も、体力も、気力も衰えた。今やないない尽しだが、人生の後半をオマケと考える考え方は決して持ちたくない。次のクライマックスを迎える節目の時と考えることはできないか。

さて、そこで「人生3カ年計画」である。そのビジョンは「心を枯らさずに生きる」である。コンセプトは（1）社会のお役に立つ。そのポイントは「大好きな八王子」。（2）回りに制約されず気ままに生きる。ポイントは身の回りのモノ（物だけではなく人間関係も含むあらゆるモノ）から身軽になる。—これはかなりむずかしいが一、時期は3年間。進み具合や自分の変化をみて、柔軟に次の3年間を考える。

まだ発想の段階だが、50年の感謝を込めて金婚式の計画だけは進んでいる。これからの具体的な計画づくりが楽しみな昨今である。



会員番号 92 **杉山 友一** （すぎやま ともかず）

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ① 2006年1月 | ⑤ 山栄興産グループ社主 |
| ② 1935年 | ⑥ Enjoy the challenging |
| ③ 八王子市 | ⑦ 音楽鑑賞、ゴルフ、乱読、ボランティア |
| ④ 八王子市元本郷町 | ⑧ 180 プロバスいろいろ考「全国協議会に参加して」 |
| | 193・194 ボランティア考 |
| | 215 超高齢化社会の到来 |
| | 228 超高齢化社会再考 |

関心・感動・感謝

元気とは「気」が「元」と書かれています。そして、気とは「命の原動力となる勢い」のこと、したがって、全てのことは「気」から始まると常に自分に言い聞かせながら、魂に皺を寄せないことをモットーにしています。とは言えこの年齢になれば肉体的にも全く無傷と言うわけにもいかず、あちこちの部品の点検修理、養生は致し方なく、また、加齢と共に情報処理能力の低下や判断力の劣化も自覚しています。しかし、それでも数年後の目標「やりたいこと」がある今の環境は自分らしいことと満足しています。物事に関心を持ち続け、そこに身を添わせることからやがて感動が生まれ、それが感謝の念に収斂されていく、そんな心境の人生最終章を描いています。元東大総長大河内一男さんの書に「古希不足祝 傘寿未青春」（古希祝うに足らず、傘寿未だ青春）とありました。我が意を得た思いです。



会員番号 93 **岡本 宝蔵** （おかもと ほうぞう）

- | | |
|------------|-----------------------|
| ① 2005年12月 | ⑤ DXアンテナ(株) 業務部長 |
| ② 1942年 | ⑥ 地域社会に奉仕できお役に立てる事の感動 |
| ③ 北海道 | ⑦ 社交ダンス、カラオケ、吟詠、旅行 |
| ④ 八王子市叶谷町 | |

脚下照顧

当八王子プロバスクラブに入会したのは、現役の60代、あっという間の10年が経過し、本当に日が経つのが早いものです。

高齢者の仲間に入り後期高齢者に近づき、光り輝く「光輝（後期）高齢者」に成りたい願望を持ち、最後の最後まで元気で楽しく生きたいと思い、自己啓発しながら、まだまだやりたいことのチャレンジであります。

私の人生においてとても好きな言葉があります。それは「脚下照顧」、「脚下」は足の下、「照顧」はよく照らして顧みる。誰しも自分に対しては甘いもの、しかし、それでは成長が望めない。先ずは自分の足下を良く見直し、反省し常に学ぶ姿勢を持ち続ける事が大切だ（つまり学ばざれば即ち老いて衰う）という言葉です。

この言葉を実践実行する為に、毎年目標を定めそれに挑戦しておりますが、当然の事ながら、何回も挑戦しても結果が得られない場合も多々有り、めげずに努力して居ます。得た知識や知恵は荷物には成りませんので、更に自己啓発をし、職場や地域等の何処かで、何か自分がお役に立つことがあれば、健康に注意して、これからも挑戦していきたいと思っております。



会員番号 94 石田 文彦 (いしだ ふみひこ)

- | | |
|------------|-------------------------|
| ① 2006年3月 | ⑤ 日立製作所中央研究所研究員、上越教育大教授 |
| ② 1940年 | ⑥ 寛容 |
| ③ 福井県 | ⑦ テニス、家庭菜園、俳句 |
| ④ 八王子市みつい台 | ⑧ 219 近現代俳句選 |

自選俳句

俳句クラブに参加して3年になるが、俳句はプロバスクラブでの良き出会いであった。この間、毎月の句会に4句提出して会員の評価を受け、その中から宗匠が各会員から一句を選別し、「プロバスだより」に掲載している。本稿はこの選に漏れた私の句を自選したものである。

初明り太郎の夢を包み込む
悲しみも溶かして奔る雪解川
庭のすみ所得顔の露の臺
攻防の城跡太き夏蕨
灼熱に街は静まる百日紅
虫しぐれ愛憎こもる夜の闇
紅葉かつ散る黄檗山萬福寺
次郎柿たわわに実り照り映ゆる

冬ざれの野辺に迷ひてゆき暮れぬ
やはらかき朝日にゆるむ薄氷
屋敷古びし梁に初燕
夏空の青海原や遠き日々
朝蟬や夢と現を漂ひぬ
長旅も夢幻か秋深し
木漏れ日の苔庭染めし散紅葉
ぶつ切りの鰯と煮込めり憂きことも



会員番号 98 川村 真 (かわむら まこと)

- | | |
|-----------|--------------|
| ① 2006年9月 | ⑤ 八王子市建設部長 |
| ② 1936年 | ⑥ 元気 |
| ③ 八王子市 | ⑦ 旅 |
| ④ 八王子市追分町 | ⑧ 197 北欧を旅して |

2020年東京オリンピックの観戦は

私は1936年の第11回ベルリンオリンピックの年に生れ、1964年第18回東京オリンピックの年に結婚し、2020年の夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まった昨年、夫婦元気で金婚式を迎えることができました。

2020年に私は84歳になります。そこで2020年東京オリンピック・パラリンピックが観戦できるかどうかパソコンの前に座り、まず平均寿命を検索しました。男性が80.21歳、女性が86.61歳で、男性が初めて80歳を超えましたが、私が平均寿命まで生存しても2020年東京オリンピック観戦の夢が叶なうことはありません。そこで、希望を持って生活したく平均余命を検索しました。平均余命表によりますと1936年生れの男性の平均余命は8.66年(同年の女性は11.48年)で統計上2020年の夏季東京オリンピック・パラリンピックが観戦出来る希望が湧いてきました。プロバスクラブ会員の皆様の平均年齢はほぼ私の年齢と同じ位だと思いますので、皆さん元気で頑張りましょう。



会員番号 99 **土井 俊雄** (どい としお)

- | | |
|------------|---|
| ① 2006年10月 | ⑤ 帝国書院、リコー教育機器大阪支店長、
系列販社社長 |
| ② 1938年 | ⑥ シンプル・イズ・ベスト |
| ③ 八王子市 | ⑦ 音楽鑑賞・読書・映画鑑賞 |
| ④ 八王子市式分方町 | ⑧ 182 晩秋の秩父路散策
201 旅の思い出
208 洋画の楽しみ
218 読書の楽しみ |

歴史の裏側を覗く

NHKの大河ドラマについては、ある新聞社が調べたアンケートによると、見たい時代別には、1位が戦国時代、2位が幕末、3位が明治・大正だそうで、人気のないのは古墳時代と戦後～現代のようだ。戦後～現代の不人気はちょっと気になるところ。次に人気の高い戦国は、武将のキャラクターや乱世における人の生きざまが要因だ。好きな主人公は、圧倒的に織田信長、10%ほど落ちて信玄や謙信が並ぶ。幕末と答えた人の魅力は、近代の出発点を知る醍醐味や大転換期における人の生きざまだ。好きな主人公は、圧倒的に阪本竜馬、そして吉田松陰ら長州藩士と勝海舟だそうだ。

意外なのは、西郷隆盛や薩摩藩士が最低にランクされていること。このように歴史の表舞台で活躍した時代や人物については色々な書物を通じて理解しているが、最近出版された「維新の後始末」(副題 明治めっちゃくちゃ物語 野口武彦-新潮新書)は、歴史の隠れた部分がひょっこり顔をのぞかせ面白い。奇兵隊反乱・版籍奉還・岩倉使節団・マリアルス号事件・敵討禁止令・秩禄処分・江華島事件等の事件は、狡知にたけた欧米のつわものに明治新政府がどう対処したかを知る手掛かりになりそうだ。



会員番号 100 **戸田 弘文** (とだ ひろふみ)

- | | |
|------------|------------------|
| ① 2006年10月 | ⑤ (株)戸田工務店 代表取締役 |
| ② 1945年 | ⑥ 誠実 |
| ③ 八王子市 | ⑦ 酒、読書 |
| ④ 八王子市追分町 | |

思うこと

ここ2年ばかり我が母校である八王子市立第2小学校で、ゲストティーチャーを依頼され、3年生の児童に八王子まつりの話をしています。

子ども達の事が昨今いろいろ言われていますが、実際に授業をしてみますと、皆真剣に私の話を聞いてくれて、とても雰囲気の良い時間を過ごせました。大学時代新任研修で、見知らぬ学校に赴いた時とは大違いでした。私も余裕を持って指導に接することができ、いろいろ観察し得ることが大でした。

私自身の事を考えると、もうひと踏ん張りしなければならないと思う次第です。プロバスの皆様は、とても若く、アクティブに考え、行動していると感心しています。孫も中学生になると、一人の人間として話をしなければいけないと痛切に感じている今日この頃です。

私は現役でまだ仕事をしていますので、動ける限りプロバスに誇りを持ち、生きていこうと思っています。



会員番号 101 **佐々木 正** (ささき まさし)

- | | |
|------------|------------------------|
| ① 2006年11月 | ⑤ 東京電力(株)、日本原燃(株)取締役社長 |
| ② 1935年 | ⑥ 日に新た、また日に新た |
| ③ 山梨県 | ⑦ 音楽・美術鑑賞、ゴルフ |
| ④ 八王子市絹ヶ丘 | ⑧ 201 諏訪周辺の美術館へ |

スタンディング オベーション

パーヴォ・ヤルヴィは、今や世界最高レベルの大マエストロである。秋口から NHK 交響楽団の首席指揮者に就任するが、正規の就任に先立つ2月のプログラムは、考え抜かれた楽曲ばかりで、とりわけ B チクルスは、ショスタコーヴィッチの交響曲第5番。ロシアの体制批評家たちの悪評に耐えて、起死回生をかけて発表した作品で、当時熱狂的な成功を収めた。この作品をヤルヴィが精魂込めて振ったのだから、観客の興奮は推して知るべしだ。

さて、当日の感銘は、それだけに終らなかった。N 響のコンサートマスターを35年の長きにわたって務めた堀正文さんがこの日を最後に退団する記念の日でもあった。N 響のメンバー全員が彼の長い間の功績を讃え、謝して演奏しているに違いない。演奏が終了したときの熱狂的な拍手は、長く長く続いた。私は、コンサートマスターがこれまで全力で率い、果たしてきた仕事を自身が満足、充実した思いで区切りをつけた場面に居合せ、目のあたりにした感動、幸せを強く感じた次第である。



会員番号 102 **宮城 安子** (みやぎ やすこ)

- | | |
|-----------|-------------------|
| ① 2007年1月 | ⑤ 八王子レクリエーション協会理事 |
| ② 1938年 | ⑥ 根気、元気、勇氣 |
| ③ 八王子市 | ⑦ ハイキング、旅行、編み物 |
| ④ 八王子市中野町 | ⑧ 210 地域に育てられて |

挑 戦

ラジオ体操資格取得試験に挑戦、何10年ぶりの試験に大変緊張した。音楽が流れると自然に体が動き出す永遠の健康体操 ラジオ体操。トリム健康体操のプログラムの中にラジオ体操も組み込まれており、よく実施してはいるのだが、改めて勉強し直しました。1年間錦糸町まで通い、NHK テレビで指導をしている先生たちの指導を受けました。

筆記試験、実技試験(ラジオ体操第1・第2・みんなの体操)があり、体操の理論・指導法・身体の仕組み等厚い本1冊を読込みました。実技では、型の目的・効果などの説明も求められます。単語帳を作り、鏡に映して正しい形を体に覚えさせ、声に出してリズムを取ったりと大変でした。頭が真っ白になったり、足が震えたり、本を読んでも頭に入らなかったりしましたが、今は何かに挑戦してみる事の大切さを痛感しております。お陰さまで2ヶ月後には2級合格の通知をいただきました。

体操考案の基本方針は、老若男女を問わず、誰でも、何処でもできる、リズムに合わせ愉快地にできる、機械を用いなくて、簡単にできます。何れにしても、体を無理なく動かすことは、健康のために必要なことです。ラジオ体操を毎日やることをお勧めします。



会員番号 103 **増田 由明** (ますだ よしあき)

- | | |
|-----------|--------------------------|
| ① 2007年5月 | ⑤ 東京国税局調査部、敦賀・王子・八王子税務署長 |
| ② 1945年 | ⑥ 一期一会(石の上にも3年) |
| ③ 北海道 | ⑦ 歴史、写真、落語、観光ガイド等 |
| ④ 東京都港区三田 | ⑧ 209 敦賀の風景 |

近況報告

プロバスに平成19年5月に加入し、先輩の皆様から多くの刺激を受けております。入会の時点では61歳で一番若かったと思います。なかなかプロバス会員の平均年齢に到達できませんが、これも先輩諸氏が元気で活躍されているからだと思います。公務員を退職し、その後の時間の使い方、社会との関わり方を勉強させていただいております。現在、港区で観光ボランティアガイドを始めて2年経ちました。同世代のお客様との会話を始めるのもプロバスで培った知識・経験等が役立っています。

昨年、孫が誕生して今後の人生の時間配分もそちらにシフトしていく可能性もありますが、多分私の出番は期待されていないようです。そんな訳で今後も健康に配慮して、これまで以上に各種活動に励んでいきたいと思っています。



会員番号 104 **有泉 裕子** (ありいずみ ゆうこ)

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| ① 2007年7月 | ⑤ 八王子八幡町郵便局長 |
| ② 1941年 | ⑥ 継続 努力 |
| ③ 山梨県 | ⑦ コーラス、陶芸、登山、
アメリカンスクエアダンス |
| ④ 八王子市上野町 | ⑧ 197 思いがけない高尾の冬景色 |

忘年山行

所属する山の会では毎年12月中頃に忘年山行が行われています。2014年12月14日運よくすっきり晴れあがった空になり、冷たい西風も収まって、絶好のハイキング日和となり総勢28名で中央線の猿橋駅の北に座る百蔵山へ行ってきました。山頂の一角にシートを広げて持ち寄ったおでんを温め、おしるこを作り、熱燗をつけ、1年の無事に感謝して乾杯、温かい食事とお神酒で話も弾み、ひととき賑やかな時を過ごしました。お腹もいっぱい、良い気持ちで山をおりました。

中央線で鳥沢駅を出て大月、初狩に至る間、桂川の左岸台地上に大きなふんばりを見ているこの百蔵山は実家が山梨ですので何度となく眺めて通っているのですが、初めて行く機会に恵まれ良かったと思います。なにせ蔵が百もあるという縁起のいい名前の山ですから。